
バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと天才？たちと召喚獣

【Nコード】

N1068Z

【作者名】

SHIN.

【あらすじ】

科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。

そこに二年の振り分け試験直前に転校してきた7人の天才？とFクラスのバカたちとAクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。この作品が処女作ですので駄文＋亀更新になるかもしれませんがそれでもよければ読んでください。

プロローグ（前書き）

はじめまして、SHIN・と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれませんが、よろしく願います。

プロローグ

振り分け試験日

明久side

時刻8時55分

「おはよーございます鉄・・・西村先生！」

鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」

「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃって」

鉄人「くだらん冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まったくこのバカは・・・）」

「はい！」

僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二」

雄二「ん？遅かったなバカ久」

明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないし！雄二も大差ないじゃないか！」

康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない」

島田「仕方ないないわよ、吉井はバカなんだし」

「みんな酷い！これにはひじょーに深い訳が・・・」

秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはのう・・・」

「だからちがうってば！」

雄二「なら何故遅刻したんだ？」

「それには深〜い事情があつて・・・」

雄二・秀吉・康太・島田「「「（・・・）寝坊（だな！）（じゃ

な！）（ね！）」「」」

「待って！まだ何もいつてないよね！？」

大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよー」

振り分け試験終了後

「これならCクラスくらいいいけたんじゃないかな？」

雄二「安心しろ明久、お前はFクラスで確定だ」

「なんだと！10問に1問は書けたはずだからDにはいつてるはずさ！」

4人（（（やっぱり吉井はバカだな）））

明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久side out

優璃side

優璃家にて

時刻20時30分

「ハア・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」

葵「どうかしたの？優璃」

「うつん、なんでもないよ！」

葵「それならいいけど」

「それより葵、振り分け試験受けなくてよかったの？」

葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだっていいし、

麗奈も心配だしね」

葵は笑顔でそう答えた。

麗奈「・・・ごめんなさい」

葵「麗奈が謝ることはないでしょ」

「そうだよ」

麗奈「・・・でも」

葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」

「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」

麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」

「なにやってるの和くん・・・」

葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」

ピンポン♪

「誰かな？」

葵「ちよつといってくるね」

和哉「お邪魔しま〜す」

葵「噂をすれば・・・だね」

和哉「???」

「寝坊くん、どうしたの？」

和哉「うつ!?!どうしてそれを」

「葵から聞いた〜」

和哉「葵さん!どうしてしってるんですか、今日試験受けてないでしょ!?!」

葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」

和哉「小学生じゃない!」

「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね〜」

和哉「・・・(シクシク)」

麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」

「私は多分問題ないとおもうけど」

麗奈「・・・優璃とも一緒のクラスがよかった」

「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」

麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗ちゃんと薫ちゃんと蓮くんは？」

麗奈「・・・薫は問題ないって言ってた」

「宗ちゃんと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしいよ」

麗奈「・・・あの3人はAクラス確定のはず」

葵「そうだね」

「そういえば次の登校日っていつだっけ？」

葵「たしか始業式の日だよ」

「そうだったね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人に早く会いたいし）」

葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝うよ」

麗奈「・・・ありがとう」

「和くん・・・いつまで泣いてるの・・・」

和哉「・・・僕は小学生じゃない・・・（シクシク）」

優璃 side out

第1話 & l t ; 転校生たちと自己紹介 & g t ;

明久 s i d e

鉄人「遅いぞ！吉井！」

「おはようございます西村先生！」

鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろう」

「え？ えーつと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」

鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのか？・・・まあ良い、受け取れ」

「掲示板とかに張り出したほうが楽じゃないですか？」

鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だから色々問題があるんだ」

「へえ、さて何クラスかなつと（きつとDくらいは・・・）」

もらった封筒の端を破き、中に入っていた紙をみると。

『吉井 明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなってるのかな・・・？」

「なんて考えすぎだよね！」

軽快に扉を開けて入った。

「すみません。ちょっと遅れちゃいました」

雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」

（・・・へ？）

雄二「聞こえなかったのか？ああ？」

（それにしてもなんて物言いだろ。いくら教師でも失礼すぎる。）
僕はにらみつけるように教壇に立っている教師を見た。

「・・・雄二、何やってんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄二だった。

雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がってみた、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」

明久「そうなんだ」

F「「「「なにー！？」転校生だとおおお！？」」「」」」

F「男か！？女か！？」

雄二「男子1人、女子2人らしいぞ」

F「「女子がくるぞー！！」」「」

F「「「うおおおお！！」」「」」

「で、何で雄二が先生の代わりを？」

雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」

「え？それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの？」

雄二「ああ、そうだ」

（雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・）

雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

（考えることは、同じなんだな）

「それにしてもさすがはFクラス。ひどい設備だね」

Fクラスの面々はみんな床に座っている。椅子なんてものはないらしい。

福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね？」

そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貧相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。

このクラスの担任だ。

福原先生「それと席についてもらえますか？HRを始めますので」

僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。

先生は明久たちを待ってから壇上でゆっくりと口を開いた。

福原先生「えー、おはようございます。二年F組担任の福原慎です。よろしく願います。」

福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。
チョークすらまともにないみたいだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば申し出てください」

F「せんせー、座布団に綿が入ってないです」

福原先生「我慢してください」

F「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原先生「ボンドで直してください」

F「せんせー、窓が割れてて隙間風が寒いです」

福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」

(・・・ひどすぎる)

福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやってもらいましょう。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入ってきてください」

福原先生がそう言うのと、転校生の3人(小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子)がFクラスに入ってきた。

福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」

和哉「えっと、一ノ瀬 和哉といいます。趣味は絵を描くことです。一年間よろしく願います」

F「どこからどうみても小がk・・・ひっ!？」

(な・・・なんだこの殺気は!?)

和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様をお願いします(ゴゴゴゴ・・・)」

一ノ瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言い放った。

福原先生「つつ次は、川崎さん。自己紹介を。」

葵「川崎 葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしく願います。」

長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言った。

秀吉「葵殿ではないか!？どうしてここにいるのじゃ?」

「秀吉の知り合い?」

秀吉「まあ、そんなところじゃ」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」

秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」

葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかったんだよ。」

福原先生「え、雑談は後にしてください。」

葵「あ、すみません」

福原先生「水無月さん、自己紹介を」

麗奈「・・・はい。・・・水無月 麗奈です。・・・よろし

くお願いします。」

と、綺麗な金髪の女の子が言った。

F「質問いーですかー？」

麗奈「・・・はい」

F「親が外国人なんですか？」

麗奈「・・・母がイギリス人」

葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だから話すときはゆっくり話してあげてね」

（帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなあ・・・）

福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」

秀吉「木下 秀吉じゃ。演劇部に所属しておる」

（秀吉、今日もかわいいなあ）

秀吉「よく間違われるが僕は女子ではなく男子じゃ・・・」

和哉（木下君も苦労してるんだね・・・）

康太「・・・土屋 康太・・・特技は盗みじゃなくて盗s・・・特にない」

和哉（・・・聞かなかったことにしよう）

島田「島田 美波です。海外育ちで日本語は会話は出来るけど読み書きが苦手です。趣味は吉井 明久を殴ることです」

明久「誰だ！そんなピンポイントで危険な趣味を持つてる子は！？」

和哉・葵（あの子とはあまり関わらないほうが良さそう）

あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってきた。

「コホン。え〜っと、吉井 明久です。気軽に『ダーリン』と読んでくださいね」

F「『『『『ダーリンイイーーン!!!!!!!!!!』』』』」

(凄い威力だ・・・吐き気が止まらない)

「・・・失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願い致します」
僕が自己紹介を終えると・・・

姫路「あの、遅れて、すみま、せん・・・」

F×4「え？」

福原先生「ちょうど好かったです。今自己紹介をしているところなので、姫路さんもお願ひします」

姫路「は、はい！ あの、姫路 瑞希と言います。よろしく願ひします！」

F「はいっ！ 質問です！」

姫路「あ、はいっ。なんですか？」

F「どうしてここにいますか？」

姫路「そ、その・・・振り分け試験の最中、高熱を出してしまひまして・・・」

F「そういえば、俺も熱(の問題)が出たせいでFクラスに」

F「ああ、化学だろ？ あれは難しかったな」

F「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

F「黙れ1人っ子」

F「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」

F「今年一番の大嘘をありがとう」

(僕以外にもみんなバカばっかじゃないか・・・)

姫路「で、ではっ、今年1年よろしく願ひします！」

姫路は逃げるように、僕と雄二の間の空いてる席に着いた。

彼女は席に着くや否や、安堵の息をついて卓袱台に突っ伏してしまふ。

「姫路さん、体調はもう大丈夫なの？」

姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりましたよ。」

「そっか、よかった」

福原先生「はいはい。静かに・・・」

バンバン！！・・・バキッ！

教卓が木っ端微塵になった。

（さすがに酷すぎるよ）

福原先生「えゝ。代えを持ってきますので、皆さんは自習をしていてくださいね」

「・・・ねえ雄二、ちよつと良い？」

雄二「ん？なんだ？」

和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな）

雄二を伴い廊下に出た。

姫路「吉井君、どうしたんでしょうか？」

葵「姫路さん、吉井君が気になるの？」

姫路「え？、えつと」

葵「川崎　葵です。姫路さん、よろしくね。」

麗奈「・・・水無月　麗奈」

姫路「こ、こちらこそよろしくお願いします」

廊下にて。

「ねえ雄二、試召戦争を仕掛けてみない？」

雄二「この前学校の設備なんざどうでもいいってなかったか？・・・姫路のためか？」

「ち、違うよ！？」

雄二「素直じゃねえな。まあどうせ、試召戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくてな」

和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずはＦクラ
ス代表の手腕をみせてもらいますか）

雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ」

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Fクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Aクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

F×41「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ！」

F「いくら学費が安いからってこの設備はあんまりだ！」

F「Aクラスだって同じ学費だろ！？」

F「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

第2話 & 1 t ; D クラスに宣戦布告へ & g t ;

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う!」

F「そんなの勝てるわけがないだろ?」

F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」

F「姫路さんがいたら何もいらない!」

F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です!」

雄二「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」

F「無理に決まってやるじゃん」

F「そう言われても何の根拠もないしなあ・・・」

雄二「根拠ならあるさ。このクラスには勝つことのできる要素が揃っている」

雄二は自信ありげにそう宣言した。

雄二「おい康太、いつまで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」

3人「・・・えっ!?!」

3人は素早くスカートを押さえた。

雄二「土屋 康太 こいつがあのある有名な寡黙なる性職者だ」
そういうと康太は首を横に振った。

F「馬鹿な・・・奴がそうだというのか?」

F「見る! まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」

F「ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ」

雄二「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」

姫路「え? 私ですか?」

(姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね)

雄二「ああ、ウチの主戦力だ期待している」

F「そうだ! 俺達には姫路さんがいる!」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」

雄二「それに木下 秀吉だっている」

秀吉「ワシもか？」

F「演劇部のホープ！」

F「確かAクラスに木下 優子っていう姉がいただろ」

雄二「そのほかにも島田もいる」

島田「えっウチ？」

雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」

F「坂本って小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだろ」

F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」

F「これはいけるんじゃないか!？」

F「よし! やってやるうじゃねーか!！」

教室の士気が高まっていったが・・・

雄二「それに吉井 明久だっている」

シーン・・・

F「誰だよその吉井 明久って」

「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ!？せつかく上がった士気が台無しじゃないか！」

雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。こいつの肩書きは『観察処分者』だ!！」

F「確か観察処分者って『馬鹿の代名詞』じゃなかったっけ？」

「ちつ違っよ!！ちよっとお茶目な16歳の愛称で・・・」

雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」

「肯定するなバカ雄二!！」

姫路「あのそれってどういうものなんですか？」

雄二「観察処分者っていうのは具体的には教師の雑用係だな。

力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになった召喚獣でこなすんだ」

姫路「それって凄いですね! 試験召喚獣って見た目と違って力持ち

らしいですし」

姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。

「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にフィードバックされるんだ。皆と同じで教師の監視下しか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」

F「おいおい・・・じゃあ召喚獣がやられたら本人も苦しいって事だろ？」

F「だよな・・・それならおいそれと召喚できないヤツがいるって事じゃん」

雄二「気にするな！明久はいてもいなくても大して変わらん雑魚だ」

「・・・雄二そこは僕をフォローするところだよな」

葵「坂本君、さすがに酷すぎない？」

「川崎さん・・・」

葵「葵でいいですよ」

「葵さん・・・ありがとう」

雄二「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思う。皆この境遇に大いに不満だろう？」

F「・・・当然だ！」「」

雄二「なら全員筆を執れ！！出陣の準備だ！」

F「」「」「おぉー！」「！」「」「」

姫路「おッおー！／／／」

姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。

雄二「明久にはDクラスへの宣戦布告の死者になってもらう」

「ねえ雄二今字が間違ってた？それに下位勢力の使者ってたいてい酷い目に遭うよね？」

雄二「大丈夫だ。騙されたと思って行つて来い」

和哉「一緒に行こうか？」

麗奈「・・・私も」

「えっ？一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」

麗奈「・・・麗奈でいい」

「ならこつちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈ちゃん」

和哉・麗奈「（・・・）はい」

こうして3人でDクラスに向かった。

オリキャラ紹介（1）（前書き）

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介（１）

名前：神谷 優璃

読み：かみや ゆり

性別：女

誕生日：７月１０日

身長：１５３ｃｍ（Ｂ）

所属クラス：２ - A（代表）

得意教科：英語

苦手教科：数学

趣味：読書・ゲーム

特技：料理

外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレ
ンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。

性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・ 明久と同じマンションに（川崎 葵）（水無月 麗奈）と共に住
んでいて隣同士。

・ 実は大財閥のご令嬢。

召喚獣の武器：サーベル（二刀流）

召喚獣の服装：西洋風の鎧

腕輪の能力：現時点では不明。

*

名前：川崎 葵

読み：かわさき あおい

性別：女

誕生日：4月17日

身長：156cm（C）

所属クラス：2-F

得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学

趣味：演技の練習、演劇鑑賞

特技：演技、声帯模写

外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。

性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

- ・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。

- ・秀吉とは少しだけ面識がある。

- ・振り分け試験は（水無月 麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島 翔子2倍以上の点数差をつけるほどの学力をもっている）。

召喚獣の武器：輪刀

召喚獣の服装：巫女服

腕輪の能力：現時点では不明。

*

名前：水無月 麗奈

読み：みなづき れな

性別：女

誕生日：2月21日

身長：155cm（B）

所属クラス：2 - F

得意教科：英語・数学・化学・物理

苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）

趣味：料理・お菓子作り

特技：料理・お菓子作り・裁縫

外見：髪は肩にかかるくらい金の髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。

性格：重度の人見知りで、Fクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・秀吉以外とは基本は話さない。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・生まれてから人生のほとんどを外国ですごしているため、日本語がほぼわからない。（普段の会話程度ならなんとかなる。）

・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（川崎 葵）と共に住んでいて隣同士。

・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Fクラス入り。

召喚獣の武器：弓矢

召喚獣の服装：法服

腕輪の能力：現時点では不明。

*

名前：一ノ瀬 和哉

読み：いちのせ かずや

性別：男

誕生日：3月26日

身長：141cm

体重：30kg

所属クラス：2-F

得意教科：物理・化学・数学

苦手教科：日本史・世界史・古典

趣味：読書・絵を描くこと

特技：絵を描くこと

外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着ても小学生にみられるほど。

性格：見かけによらずしっかり者でちょっと腹黒い一面も。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・文月学園の3-Aクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。

・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系3教科を受験できず、Fクラス入り。

召喚獣の武器：両手にトンファー

召喚獣の服装：黒の改造学ラン

腕輪の能力：爆破（自分の点数を消費してトンファーを爆弾にかえる。その爆弾の威力は点数消費に比例する）

第3話 & l t ・ 作戦会議 & g t ; (前書き)

最近急に寒くなってきたとちょっと風邪気味です・・・

第3話 & 1 t ・ 作戦会議 & g t ;

「ただいま雄二、Dクラスに宣戦布告してきたよ」

雄二「おい、明久ちよつといいか？」

「ん？どうしたの雄二？」

雄二「いや、ぶつちゃけお前が酷い目に遭うと思っていたんだが・
・」

「ああ、うん。和哉君が嘘泣きでもしてDクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭ったね。」

雄二「まあいい（無事だったか）、今からミーティングを行う！明久、宣戦布告してきたんだな」

「一応、今日の午後に関戦予定と告げてきたけど」

葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」

雄二「そうするか。明久、今日ぐらいはまともな物食べるよ？」

「そう思うならパンでもおごつてよ」

麗奈「・・・明久君お昼ご飯食べない人？」

「いや・・・一応食べてるよ」

秀吉「・・・あれは食べてると言えるのかの？」

康太「・・・明久の主食は水と塩」

「失礼な！！僕をバカにするのも程がある！きちんと砂糖も食べてるよ！」

和哉「それは食べてるとは言わないよ」

葵「正確には舐めるが正解だね」

（何だろう？皆が同情の眼差しを向けてくる）

雄二「まっ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな」

「しッ仕送りが少ないんだよ！」

姫路「あの・・・吉井君、もしよかったら私がお弁当作ってきま
しょうか？」

「え？いいの姫路さん！？」

姫路「はっはい明日のお昼でよければですが・・・」

「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」

島田「・・・ふうん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作ってるなんて」

姫路「えっあッいえ！／＼その皆さんにも・・・」

和哉「僕たちにも？いいの？」

姫路「はい。嫌じゃなければ」

秀吉「おお、明日の昼は豪華になりそうじゃのう」

康太「・・・楽しみ」

雄二「じゃあ明日の昼は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試召戦争についてだ」

島田「ねえ坂本。1つ気になったんだけど、どうしてAでもEでもなくDクラスなの？」

雄二「色々理由はあるんだがEクラスは相手じゃないからだ」

和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあってもEクラスには勝てるだろうからかな？」

雄二「その通りだ」

島田「それならDクラスとは正面からぶつかるって厳しいの？」

雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」

「なら初めから目標のAクラスを狙おうよ」

雄二「初陣だからな。派手にやって今後の景気づけにしたいだろ？」

それに、打倒Aクラスの作戦における必要なプロセスだしな」

「でも、Dクラスに勝てなかったら意味がないよ」

雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」

島田「良いわね。面白そうじゃない！」

秀吉「Aクラスの連中を引きずり落としてやるかの！」

康太「・・・（グッ）」

姫路「がっ頑張ります！」

麗奈「・・・頑張る（優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・）」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかったから0点なんだけど」

和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」

雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かってもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」

そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

第3話 & l t ・ 作戦会議 & g t ; (後書き)

次回はAクラスの転校生の話。

その次にFクラス対Dクラスの予定です。

第4話&1t・Aクラスの転校生たち>・(前書き)

今回はAクラスsideの話です。

第4話&1t;Aクラスの転校生たち>

Fクラスで自己紹介が行われているところ。

優璃side

職員室にて。

高橋先生「君たちが転校生の3人ですね？」

宗一郎・薫・私「はい」

高橋先生「あとの1人はどこにいますか？」

薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」

高橋先生「わかりました。ひとまず、Aクラスに向かいましょうか。」

Aクラス前。

高橋先生「それではここで呼ぶまで待っていてください。」

宗一郎・薫・私「わかりました」

Aクラスにて。

高橋先生「皆さん、席について下さい。」

生徒たちが全員席に着いたところで、

高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、2・Aクラスの担任の高橋 洋子です。今年一年間よろしく願います」

高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか？不備があれば申し出て下さい」

・・・シーン・・・

高橋先生「特にないようですね、では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやってもらいましょう。神谷さん、桐

谷くん、武内さん入ってきてください。」

3人「はい」

高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」

薫「武内 薫です。一年間よろしく願いしま〜す」

A「うちの学園って女子のレベル高いよな」

A「だよな」

高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」

宗一郎「桐谷 宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・

あと、薫に手を出したらコロ（ゴホン！）なんでもありません」

A男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）

高橋先生「次は神谷さんですね。では、2・Aクラス代表として、自己紹介をお願いします」

A×45「え？」

「えつと、（うう、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷 優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしれませんが、一年間よろしくお願いします」

A「てつきり霧島さんが代表だと思ってたよ」

A「つてことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね・・・」

高橋先生「私語は謹んでください」

A×2「すみません」

高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介をお願いします」

自己紹介終了後。

「はあ〜緊張した〜・・・」

薫「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね〜」

宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」

「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」

翔子「・・・ならそう呼ばせてもらう」

「とりあえず職員室に行って来ますね」

宗一郎「いってら〜」

職員室にて。

「なにか用ですか？」

高橋先生「ええ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試召戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」

「わかりました」

Aクラスにて。

薫「まさか新学期初日から試召戦争仕掛けてくるとは思わなかったなあ」

愛子「だよ〜」

「えっと、工藤さんでしたよね？」

愛子「うん、そだよ〜、よろしくね優璃ちゃん、薫ちゃん、桐谷君」

「う、うん（薫みたいな人ですね・・・）」

宗一郎「よろしく」

薫「よろしく〜で、そっちの2人は木下さんと久保君だっけ？」

優子「ええ、そうよ。ところで、代表は高橋先生と何を話してたの？」

薫「なんでもFクラスとDクラスが試召戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだつてさ」

利光「どういうことだい？振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじゃないのかい。Fクラスに勝ち目なんてないだろうに」

優子「久保君の言う通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だわ」

薫「おもしろそうだしいいんじゃない？私はパソコンで試召戦争の様子でも観てようかな」

愛子「ボクもそうしようかな」

「・・・薫、工藤さん、自習プリント終わってからにしてね」

薫・愛子「え」

優子「『え』じゃないわよ愛子、武内さんも」

薫「名前呼び捨てで構わないよ」

宗一郎「喋る前に課題を終わらしたらどうなんだ？」

薫「ぶっ宗ちゃん冷たいなあ」

「で、宗くんはどっちが勝つとみてるの？」

宗一郎「Fクラスが勝つだろうな」

翔子「・・・私もFクラスが勝つと思う」

愛子・優子・利光「「え？なんで？」」

宗くんと翔子の発言に3人は疑問に思っただけらしい。

宗一郎「根拠ならあるぞ、去年の学年末試験の結果を高橋先生に見せてもらったんだが、その時の学年主席が霧島で、学年次席・・・」

利光「姫路さんだね」

宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはずだろう？」

優子「たしかにそうね」

愛子「でも、Aクラスにいないよね？あと1人は転校生らしいし」

美穂「あ、あの」

利光「ん？どうかしたのかい？佐藤さん」

美穂「今の話なんですけど、たしか姫路さん、振り分け試験の最中に高熱で倒れたらしいですよ」

「たしか途中退室は0点だから、多分その人はFクラスにいるね」

愛子「姫路さんがいるならDクラスには勝てるかもね」

宗一郎「まあ、それだけじゃないんだけどな」

薫「とりあえず、観戦しようよ」

優子「そうね」

愛子「そだね」

利光「そうだね」

「薫は課題終わらしてからね」

薫「そんな殺生な〜・・・って、いつの間にか皆、課題終わらしてるし・・・」

宗一郎「薫」さっさと終わらせろよ」

薫「保健体育ならすぐ終わるのに〜・・・」

優璃 side out

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(前書き)

今回はAクラスのオリキャラ(転校生)の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょうか？

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール

名前：桐谷 宗一郎

読み：きりや そういちろう

性別：男

誕生日：5月3日

身長：184cm

体重：66kg

所属クラス：2-A

得意教科：現代社会

苦手教科：保健体育

趣味：モデルガン収集・ゲーム

特技：射撃・ハッキング

外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。

常に改造エアガンを携帯している。

性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特に薫）には心を許している。

親友を傷つける奴にはどんな手段を使っても制裁を加える。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・（武内 薫）と2人で同棲している。

・明久と同じマンションで部屋は隣同士。

・FFF団全員を10分ほどで片付けれるほど強い。

召喚獣の武器：スナイパーライフル

召喚獣の服装：迷彩服

腕輪の能力：現時点では不明

*

名前：武内 薫

読み：たけうち かおる

性別：女

誕生日：9月23日

身長：159cm(D)

所属クラス：2-A

得意教科：保健体育・物理・現代社会

苦手教科：古典・数学・化学

趣味：スポーツ観戦

特技：運動系なら何でも

外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。

性格：自由奔放で友達思い。

性格的に割と愛子と気が合う。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・（桐谷 宗一郎）と2人で同棲している。（親公認）

・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

召喚獣の武器：ショットガン＋手榴弾

召喚獣の服装：迷彩服

腕輪の能力：現時点では不明

*

文月学園におけるクラス設備の奪取・奪還および召喚戦争のルール

1・原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可

能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

2・召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

3・召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

4・召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度でも回復可能である。

5・相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかった場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。

6・召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。

7・戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。

8・戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもってのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(後書き)

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

第5話&1t・Dクラス戦・開戦!> ; (前書き)

Dクラス戦です。

第5話 & 1 t ; Dクラス戦・開戦！ & g t ;

明久 s i d e

開戦時間になり、Fクラス対Dクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

渡り廊下にて。

（雄二の作戦じゃあまず姫路さんたちが回復試験を受けている間、極力戦死しないように、前線を維持すればいいって言ってたけど、押してはいるもののかなり厳しいんだけど）

Fクラスは島田さんの数学を中心にDクラスと均衡していた。

D「くそっ！　なんでFクラスの癖にこんな奴がいるんだよ！！」
Dクラスの生徒が叫ぶ。無理もない。圧倒出来ると思っていた相手と均衡しているんだから。

その結果、Dクラスは勝利を焦り隊列が乱れ、Fクラスが徐々に押し始めていたが・・・

塚本「皆落ち着け！島田には数学以外で闘えばなんとかなる！元々地力で優っているのはこっちなんだ！一対一にもちこんで確実に仕留めるんだ！」

D中堅部隊「おおー！！！」

Dクラスの中堅部隊長・塚本の指示で徐々に隊列が整い始め、Dクラスに押し返され始めた。

「くっ・・・まずい（このままじゃ突破されてしまう・・・）」

島田「あつ！数学のフィールドが！？」

島田さんが数学のフィールドからでてしまった。

D×5「今だ！Fクラス島田に英語勝負で申しこむ！」

「島田さん！（まずい！島田さんが戦死したらとてもじゃないけど

前線を維持できない!」

和哉「Fクラス一ノ瀬 和哉が加勢します!サモン!」

「Fクラス吉井 明久も加勢します!サモン!」

・英語

D 1 (1 2 1 点) ・ D 2 (1 0 4 点) ・ D 3 (1 1 8 点)

D 4 (1 3 8 点) ・ D 5 (1 2 3 点)

V S

一ノ瀬 和哉 (4 2 3 点) ・ 吉井 明久 (4 7 点)

島田 美波 (5 3 点)

「和哉くん!」

和哉「なんとか間に合いましたね」

D 5 「何!? 4 0 0 点越えだど!」

D 4 「構うな! 数で押し切るぞ!」

島田「吉井、足で纏いよ!」

「島田さんも、同じく足で纏いじゃないか!」

島田「うるさいわね!!」(プスツ)

「目が目があああ!!」(助けに来たのに目突きはひどくない!)

和哉「なにやってるんですか・・・」

D 3 「先にあのバカ2人を片付けるぞ!」

和哉「させません!」爆破”!」

そういつて、和哉の召喚獣の武器のトンファーを敵に向かって投げつける・・・ドカーン!!

・英語

D 1 (0 点) ・ D 2 (0 点) ・ D 3 (0 点)

D 4 (0 点) ・ D 5 (0 点)

V S

一ノ瀬 和哉 (1 2 3 点) ・ 吉井 明久 (4 7 点)

島田 美波（53点）

トンファーが敵の近くで爆発しDクラスの5人の召喚獣は戦死した。
鉄人「戦死者は補修ー！！」

D×5「鬼の補修はいやだー！」

鉄人「安心しろ。“趣味は勉強、尊敬する人は二宮金次郎”と言う、
立派な模範生に仕立て上げてやる！」

D×5「助けてくれー！」

島田「ところで、一ノ瀬その点数は一体・・・？」

和哉「ん？英語は得意なんですよ、それに回復試験は英語しか受け
てませんので」

「これで相手の中堅部隊はあと1人だね」

塚本「くそっ！そのFクラス3人に古典勝負を申し込む！サモン
！」

・古典

塚本（138点）

VS

一ノ瀬 和哉（7点）・吉井 明久（9点）

島田 美波（6点）

「あれ・・・？」

島田「古典は無理ー！！」

和哉「あはは？どうしましょ？」

塚本「・・・いくらなんでも酷すぎないか？・・・まあいい、覚悟
！」

「2人とも撤退するよ！」

島田「敵前逃亡は戦死扱いになるんじゃないの？」

「問題ないよ、須川バリアー！」

・古典

塚本（138点） VS 須川 亮（76点）

須川「味方を盾扱いするんじゃない？え！？」

「須川君にここは任せて教室に戻ろう」

秀吉「須川よ、助太刀するのじゃ！」

・古典

塚本（138点）

VS

須川 亮（76点）・木下 秀吉（119点）

塚本「くっ？また加勢か！」

須川「おらっ！」

塚本「そんな攻撃あたり」

須川の召喚獣が塚本の召喚獣に攻撃を仕掛けるが、あっさりかわされ、

秀吉「隙ありじゃ！」

塚本の召喚獣が回避して体勢を立て直す前に秀吉の召喚獣が塚本の召喚獣の首をはねた。

Dクラス中堅部隊長・塚本、戦死。

源二「塚本！どうしてうちの中堅部隊が全滅してるんだ！？」

Dクラス代表・平賀 源二が本隊を引き連れてやってきた。

「あの人がDクラスの代表だね。（そろそろ・・・）中堅部隊員撤退！！（4人しかのこってないけど）」

須川「了解！！」

秀吉「了解じゃ！」

島田「わかったわ！」

和哉「わかりました！」

源二「逃がすか！！本隊の半分は奴らを追うんだ！所詮はFクラス

だ、一対一なら勝てる！」

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄二「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」

F本隊全員「おおー！！！」

第5話&1t;Dクラス戦・開戦!>;(後書き)

お読みいただきありがとうございます。

今日、PVが3000を突破しました。

少しでもこの駄文を覗いてくれた方々に感謝します。

第6話&1t・Dクラス戦・終戦!> ; (前書き)

Dクラス戦です。

第6話&1t；Dクラス戦・終戦！>；

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄二「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」

F本隊全員「おおー！！！」

源二「くっ？ 罠か！ 教室前まで引くぞ！（予想通りだ！！、これで坂本の警護が薄くなる！そこに伏兵を仕掛けさせて終わりだ！）」とにかく全員戦死を避けるんだ！」

雄二「明久、あとは任せたぞ」

「了解！」

雄二「近衛部隊は俺とFクラス前まで下がるぞ！つて、近衛部隊の奴らどこいった！？」

麗奈「・・・皆Dクラスを追いかけていった」

明久side out

雄二side

Fクラス前にて。

D6「来たぞ！坂本だ！！」

D7「護衛もないぞ！！」

D8「さつさと討ち取るぞ！」

「伏兵だと！？」

D×3「Fクラス代表に物理勝負を申」

麗奈「・・・Fクラス水無月が受けます・・・サモン！」

・物理

D 6 (136点) ・ D 7 (124点) ・ D 8 (118点)
VS

水無月 麗奈 (268点) ・ 坂本 雄二 (92点)

D 8 「いつの間に!？」

D 6 「まだ、高得点者がいるのか!? 聞いてないぞ!？」

麗奈 「・・・ここは通さない」

「ほう? Aクラス並じゃないか」

麗奈 「・・・問題文が読めなくても解ける問題が多かったから」

「なるほどな。(水無月も教科によっては戦力になりそうだな) だが、護衛は不要だ」

麗奈 「・・・どういうこと?」

明久 side

その頃、Dクラス前にて。

秀吉 「Dクラス代表に古典勝負を申し」

D 9 「近衛部隊が受けます!」

島田 「Dクラス代表に」

清水 「お姉様」

島田 「ひっ!? み、美春!？」

清水 「お姉様に古典勝負を申し込みます! サモン!」

島田 「ええ!? 鬼の補修はいやー!!」

須川 「島田! 助太刀するぜ!」

清水 「豚野郎は邪魔しないでください!」

島田 「吉井! アンタも助けなさいよ!」

「そんな、ヒーロー気取り、現実では通用しない! (僕だって命は

惜しい！）皆、ここで決めるよ！！一気に攻め切るんだー！！」

F×11「うおおー！！」

島田「あとで、殺してやるー！」

僕の指示でFクラスがDクラスの生徒に多対1で勝負を仕掛けていく。

「（！D代表の護衛が甘い！）Fクラス吉井 明久が」

玉野「Dクラス玉野 美紀が受けます！」

「くっ？まだ護衛がいたのか！？」

源二「残念だったね、まあ、吉井君だけなら護衛をだす必要もなかったね」

「たしかに、僕じゃあ倒せないかもね・・・だから姫路さん、よろしくね」

姫路「あ、あのー」

源二「え？ あ、姫路さん。どうしたの？Aクラスの教室は向こうだよ？」

姫路「えっと・・・Fクラスの姫路 瑞希です。よ、よろしく願います」

源二「あ、こちらこそ」

姫路「その・・・Dクラス平賀くんに現国勝負を申し込みます」

源二「は、はあ。どうも」

姫路「え、えっと・・・サモンです」

源二「あ、ああ。サモン・・・」

・現代国語

姫路 瑞希 （351点） vs 平賀 源二（149点）

源二「え？ あ、あれ？」

姫路「ご、ごめんなさいっ！」

謝罪の言葉と共に、姫路の召喚獣は大きな剣を振るい平賀の召喚獣

を斬り伏せる。

鉄人「戦争終結！！勝者・・・Fクラス！！」

この瞬間戦争は終了し、Fクラスの勝利で幕を下ろした。

第6話&1t・Dクラス戦・終戦!> ; (後書き)

あー寒い・・・

後書きって何書けばいいんだろう？

第7話 & l t ; Fクラス対Dクラス戦後 & g t ; (前書き)

Dクラス戦の戦後対談です。

第7話 & l t ; Fクラス対Dクラス戦後 & g t ;

『戦争終結！！勝者・Fクラス！！』

Aクラスside

宗一郎「予想通りだな」

翔子「・・・雄二はそう簡単には負けない」

薫「ん？雄二って誰のこと？」

宗一郎「たしかFクラス代表だ」

翔子「・・・私の許嫁・・・じゃなくて幼馴染／＼」

そう言つて翔子は頬を赤く染めた。

優子「もしかして霧島さん・・・」

愛子「うん、多分そうなんじゃないのかな？」

利光「意外だね」

3人は心底意外だと顔にでていた。

宗一郎「ま、人の好みをとにかく言う気はないがな」

薫「頑張つて翔子ちゃん！！応援するよ！」

翔子「・・・最近あまり話せてないけど・・・頑張る！」

翔子はそう言つて、右手を握りこんだ。

宗一郎「しつかし今回の試召戦争の意図がよくわからん」

優子「どうゆうこと？」

宗一郎「いや、設備向上を狙うのなら最初は勝てる確率の高いEクラスを狙うのが普通だろ」

優璃「そうだね、負けちゃったらあの設備より酷くなるんだからね」

薫「ちやぶ台と座布団より酷い設備って・・・」

愛子「想像したくないね・・・」

優璃「そう考えるとDクラスに仕掛けるのは明らかに不自然だよな」

宗一郎「これは俺の予想だが、Fクラス代表はDクラスとFクラス有利の同盟を結んでCクラスかBクラス、もしくはウチを狙ってるのかもしれない」

利光「だが、そんな同盟誰が好きこのんで結ぶんだい？」

薫「設備交換の免除と引き換えとかなら不利な同盟でも飲むんじゃない？」

利光「たしかにDクラスにとってはメリットしかないし、僕がD代表だったら間違いなくその同盟を結ぶね」

優子「なるほどね、もしDクラスがA・B・Cクラスに仕掛けて負けてもEクラスの設備ですむものね」

宗一郎「まああくまで予想だがな」

優璃「友達もいるからあんまり無理しないで欲しいんだけどね」

優璃は心配そうにそう言った。

利光「そういえば、Fクラスにも3人転校生が来たって聞いたね」

優璃「うん、その子たちだよ、本当ならみんなAクラスの学力があるのに・・・」

優子「Fクラスなら弟がいるはずだから話でもきいてみようかしら」

優璃「私も葵たちに優子さんの弟のこと聞いてみようかな？」

薫「さてと、宗くんそろそろ帰ろっ」

宗一郎「ちょっと用事があるから10分ほど待っててくれ」

薫「はい」

愛子「しっかし2人ともえらく仲が良いねー（ニヤニヤ）」

優璃「2人で同棲してるからね」

愛子「え？同棲!？」

薫「そうだよ、宗くんは私の許嫁だから／＼／＼」

翔子「・・・羨ましい・・・私も雄二と・・・／＼／＼」

Aクラスside out

和哉 side

Dクラスにて。

葵「勝ったみたいだね」

「そうだね」

F「卓袱台に腐った畳とはおさらばじゃー！ー！ー！！」

F「坂本雄二さままだな！」

F生徒たちが騒いでいるのを尻目に坂本がDクラスの代表と交渉らしいことを始めた。

「代表、何の話をしているんですか？」

雄二「一ノ瀬か。いや、この後の話をな」

「設備交換のことですか？」

雄二「・・・いや、設備は交換しない」

源二「どういうことだい？」

雄二「そつちがある条件を飲んでくれれば、和平交渉で済んだことにしてもいい」

源二「話を聞かせてくれ」

雄二「タイミングを見計らって、アレを壊して欲しい」

坂本が言うアレとは、Bクラスの外に付いてる室外機。

「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、それはどうなんですか？（世の中学力だけじゃないとしても・・・）」

源二「わかった。まあ注意や罰則はあるかもしれないが、この教室を守るならやろう。だが本当に設備を交換しなくていいのか？」

雄二「なんだ？あのボロい卓袱台と腐った畳が欲しいのか？」

源二「と、とんでもない！」

雄二「俺たちの目標はあくまでAクラスのシステムデスクだ。Dクラスの設備で満足されちゃ困るんだ」

源二「モチベーション維持のためってことか」

雄二「じゃあ俺たちはもう用はないんでな。野郎ども引き上げるぞ

！」

源「ああ。Aクラスに勝てるように祈ってるよ」

雄「本当は勝てる訳ないって思ってたんだろ」

源「はは・・・ばれてたか。まあ、頑張ってくれ。期待はしとくよ」

雄「俺たちは勝つさ、今年のFクラスは最強だからな！」

和哉 side out

第7話&1t・Fクラス対Dクラス戦後> ; (後書き)

次回は明日か明後日には投稿する予定です。

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後> ; (前書き)

総合PV5000、ユニーク10000を突破！

これからも『バカと天才？と召喚獣』をよろしくお願いします。

それと、今回からバカテストをやってみようと思います。

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後>

問題1

以下の意味を持つことわざを答えなさい。

- (1) 得意なことでも失敗してしまうこと
- (2) 悪いことがあったうえに、更に悪いことが起きる例え

姫路瑞希・川崎葵の答え

- (1) 弘法も筆の誤り
- (2) 泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら”河童の川流れ”や”猿も木から落ちる”、(2)なら”踏んだり蹴ったり”や”弱り目に祟り目”などがありますね。

一ノ瀬和哉の答え

- (2) 踏んだり蹴ったり殴ったり叩きつけたり

教師のコメント

あなたは鬼ですか。

吉井明久

- (2) 泣きつ面蹴ったり

教師のコメント

君もですか。

土屋康太の答え

(1) 弘法の川流れ

教師のコメント

シュールな光景ですね。

源二 side

Fクラスが去つてすぐのDクラスにて。

宗一郎「2-Aの桐谷だ、代表はいるか？」

D「代表〓桐谷つて人が呼んでるよ〓」

「わかった、いまいく(桐谷?たしか転校生だよな?)」

宗一郎「アンタが2-D代表か？」

「ああ、D代表の平賀 源二だ」

宗一郎「2-Aの桐谷だ、少し聞きたいことがある」

「なんだい？」

宗一郎「何を交換条件に和平に持ち込んだんだ？」

「・・・どこでそれを?(さっき決まったことなのになぜしているんだ!?)」

宗一郎「さあな?で、さっきの質問の答えを聞かせてくれ」

「・・・悪いが、口止めされているんだ(されてはいないが話さないほうがいいだろ)」

宗一郎「そうか、ならもう一つお前を倒した奴・・・姫路　瑞希で間違いないな？」

「なぜFクラスに姫路さんがいることをしってるんだ!？」

宗一郎「Aクラス確実の成績なんだからAクラスにいないければ必然的になんらかの理由でテストを受けられなかったと考えてるのが妥当だろ」

源二「そうゆうことが」

宗一郎「ああ、今のFクラスはマークしとくにこしたことはないかな」

「AクラスがFクラスをマークする必要があるのか？」

宗一郎「さあな？時間とらして悪いな。礼はまた今度でいいか？」

「礼なんて別に・・・」

薫「宗くん、帰ろっ！」

俺が礼を断ろうとしたとき、後ろから元氣そうな女の子が桐谷に飛びついて来た。

宗一郎「わかった!わかったから引張るな!それじゃあな、平賀」

「あ、ああ・・・」

源二side out

和哉side

Fクラスにて。

「(Dクラスとの交渉内容、話したら2人とも怒るだろうなあ) 葵さん、麗奈さん、ちよつといいですか？」

葵「どしたの？」

麗奈「・・・どうかした？」

坂本とD代表との交渉内容を2人に説明した。

葵「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、Dクラスの人たちにそんなこと押し付けたんだ・・・」

麗奈「・・・代表と話してくる」

「代表はもう帰ったよ」

麗奈「・・・明日、話してみる」

葵「・・・私は次の試召戦争に参加しないからね、そんなことまでして勝ちたくないし」

「僕もそのつもりだよ」

葵「この話は明日にしよう！私は部活いつてくるね」

麗奈「・・・和哉くん、帰る？」

「そだねー帰ろうか」

下足にて。

「あれ？秀吉くん？女子の制服きてなにしてるの？」

優子「何言ってるのよアン・・・キミ！アタシは木下優子よ！」

「え？あ、すみません（え？双子かな？）」

麗奈「・・・秀吉くんの・・・お姉さん？」

優子「そうよ。ところで、あなた達は？」

麗奈「・・・水無月 麗奈、2-F」

「あ、転校生の一ノ瀬 和哉です。2-F所属です。」

優子「え？同い年なの？てつきり、水無月さんの弟かなにかかと・・・」

「・・・」

「・・・はあ（そんなに年下にみえるのかな・・・（シクシク））」

優子「え？えっと・・・（触れちゃいけないものに触れたみたいね）」

麗奈「・・・気にしなくていい、いつものことだから」

「いつものことだからは酷くないですか？（シクシク）」

優子「たしかに見た目は小がk」

「・・・もうやだ」

麗奈「・・・和哉くんが拗ねた」

優子「あ、ごめんね、一ノ瀬くん。」

（どうせ僕は小学生みたいですよ・・・）

麗奈「・・・いつものこと、和哉くん、帰ろ・・・木下さん、さようなら」

優子「え、ええ、さようなら」

和哉 side out

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後> ; (後書き)

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第9話&1t・必殺料理人・転校生たちの考え> ; (前書き)

茜さん、ミヤサカさん、感想ありがとうございます。

第9話&10：必殺料理人・転校生たちの考え>

問題2

問：調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を1つあげなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉の答え

問題点：マグネシウムは炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険だから

合金の例：ジュラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので鉄ではダメと言うひっかけ問題なのですが、引っかかりませんでしたね。

水無月麗奈の答え

問題点：A question can't be read.

合金の例：Same as the above.

教師のコメント

水無月さんは帰国子女でしたね。早く日本語をマスターできるようにがんばってください。

土屋康太の答え

問題点：ガス代を払ってなかった事

合金の例：

教師のコメント

そこは問題じゃありません

吉井明久の答え

問題点：

合金の例：未来合金（↑すごく強い）

教師のコメント

すごく強いと言われても・・・

Dクラス戦の次の日。

Fクラスにて。

「昨日消耗した奴は今日の午前中に回復試験を受けてくれ！次はBクラスを制圧するぞ！」

F×41「おぉー！！！」

明久「さてと、一時間目はすうがくグハツ！？」

島田「吉井！昨日はよくも見捨ててくれたわね！骨の2、30本は覚悟しなさい！」

明久「腕にとんでもない激痛がー！！！」

昼休み。

葵「代表、ちよつといいかな？」

雄二「ん？なんだ？」

葵「私と麗奈と和くんはBクラス戦には参戦しないからね」

雄二「は？ちよつと待て！どついうことだ！？」

麗奈「・・・代表は間違つてる」

和哉「それに世の中学力がすべてじゃないって事を証明したいといつてたのに、結局は姫路さん頼みだからね」

雄二「・・・なぜそれを知っている？」

和哉「明久との立ち話を盗み聞きしましたから」

雄二「そうか・・・どうしても参戦する気がないか？」

雄二は少し困り気味にそう言つた。

葵「ないですね」

和哉「まあ、負けたところで設備ダウン以外特に困ることもないですし」

雄二「そうか・・・なら賭けをしないか？」

麗奈「・・・??」

葵「賭け・・・ですか。内容は？」

雄二「Bクラス戦をお前ら抜きで勝つたら、その次のAクラス戦に参戦してもらう」

和哉「負けた場合は？」

葵「霧島さんと結婚で、どうかな？」

雄二「は？待て！なぜ翔子のことをしつてるんだ！？」

雄二は驚きながら葵に問い返した。

葵「ん？Aクラスの子に聞いただけだよ」

和哉「霧島さんって誰？」

葵「Aクラスの子だよ、代表の幼馴染（ゴホン！）許嫁だつてさ」

雄二「ちがうわ！・・・まあいいだろう、その条件でいいのか？」

和哉「まあ、勝てないだろうからいいですよ」

雄二「後悔すんぞ？」

和哉「代表がね」

ガララッ！

明久「うう、酷い目にあつた・・・」

葵「あれ？吉井君？昼ご飯食べに行つたんじゃないの？」

和哉「あと秀吉と康太はなんで震えてるの？」

島田「さあ？購買でもいこうかな」

麗奈「・・・昼ご飯食べてなかったの？」

島田「ウチが行く前に吉井達が全部食べちゃつたのよ、それじゃ購買いつてくるわ」

そういつて島田は購買に向かつてつた。

康太「・・・地獄をみた（ガタガタ）」

秀吉「まさか、姫路の料理があそこまで酷いとはのう・・・（ガタガタ）」

雄二「・・・意外だな、姫路にそんな苦手教科があるとは」

午後。

雄二「次のBクラス戦なんとかなるか・・・？」

島田「え？次の相手はBクラスなの？」

雄二「ああ、そうだ」

島田「どうしてBクラスなの？目標はAクラスなんでしょう？」

雄二「正直に言おう。どんな作戦でも、うちの戦力じゃAクラスには勝てない」

秀吉「それじゃあワシらの最終目標はBクラスに変更なのかの？」

雄二「いや、Aクラスをやる」

明久「意味がわからないよ？」

雄二「クラスだと差がありすぎるから、一騎討ちに持ち込む。それにBクラス戦が必要だということだ」

和哉「BクラスにAクラスを攻めさせる素振りを見せさせて、Aクラスに脅しをかけ一騎討ちに持ち込むってことですか？まあ、僕は参戦しないから関係ないですが」

明久「え？どうしてさ！？」

明久が和哉を問い詰めるように聞いた。

和哉「代表のやり方が気に食わないからかな」

雄二「まあ、そうゆうことだ。だが、お前ら抜きでBクラス戦に勝つたらAクラス戦にはでもらうからな！」

和哉「約束は守りますよ」

雄二「で、明久。さつさと宣戦布告してこい」

明久「絶対にいやだ」

葵「戦争でないだし私がいつてくるよ」

雄二「なら川崎に任せるか」

葵「はい、いつてきますね」

第9話&1t・必殺料理人・転校生たちの考え>(後書き)

次回から、Bクラス戦の予定です。

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第10話&11話：Bクラス戦・開戦！>（前書き）

Bクラス戦です。

第10話&11;Bクラス戦・開戦!>;

問題3

以下の英文を訳しなさい。

This is the bookshelf that my
grandmother had used regularly.

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薫の
答え

A・これは私の祖母が愛用していた本棚です。

教師のコメント

正解です。きちんと勉強していますね。

水無月麗奈の答え

A・これはわたしのおばあさんがよくつかっていたほんだなです。

教師のコメント

正解ですが、漢字はまだ難しいみたいです。

土屋康太の答え

A・これは

教師のコメント

訳せたのはThisだけです。

吉井明久の答え

A

教師のコメント

出来れば地球上の言語でお願いします。

Aクラスside

優璃「今日の午後からFクラスがBクラスに仕掛けるんだってさ」

愛子「え？昨日Dクラスを倒した所なの？」

宗一郎「回復試験は午前中に全部済ませたみたいだな」

優子「でも、Dクラスに仕掛けさせてからFクラスがしかけるんじゃないかったの？」

薫「だよな」Fの代表さんは何考えてるんだろうね？」

宗一郎「ここで負けたら単なる底抜けのバカだとわかるんだがな」

利光「Bクラスにも勝つと言うのかい？」

宗一郎「今回ばかりはわからん」

宗一郎は頭を掻きながらそう言った。

優璃「そういえば明日には蓮くん学校に来るそうだよ」

優子「蓮くん？神楽坂くんのこと？」

愛子「そういえば神楽坂君ってどんな子なの？」

薫「天然さんだね」

優璃「早く来ないかな、色々とききたいこともあるし」

翔子「・・・優璃はその人の事が好き？」

優璃「へ？違うよ、なんで振り分け試験で手を抜いたのかをききたいんだよね」

利光「どうゆうことだい？」

宗一郎「本来なら蓮のほうが優璃より点数いいからな、ちなみにあいつ振り分け試験は3教科しか受けてなかったはずだぞ」

優子・愛子「はい？」

利光「そ、そんなんでよくAクラスには入れたね？」

宗一郎の蓮の話に、優子・愛子・利光は啞然とした。

宗一郎「あいつは天才様だからな。さて、自習だし俺は寝るかな」

薫「膝枕でもしようか？」

宗一郎「結構だ」

薫「宗くん冷たいなあ」

Aクラスside out

和哉side

開戦時間になり、Fクラス対Bクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

雄二「よし、行ってこい！目指すはシステムデスクだ！」

F「「「「「サー！イエッサー！！」」」」」

「この人たちでBクラス前線部隊を抑えられるの？」

葵「問題ないんじゃないかな？隊長の姫路さんは数学で腕輪持ちだったし」

ガラッ！

B「Bクラスからの使者だ。Fクラスにクラス間交渉に来た」

雄二「・・・内容はなんだ？」

B「四時までに決着がつかなかったら戦況をそのままにして続きは明日午前九時に持ち越し。その間は試召戦争に関わる一切の行為を

禁止する、だ」

雄二「いいだろう、協定を結ぶ」

B「そうか、じゃあ調印をするから新校舎の空き教室に来てくれ」

雄二「わかった、近衛部隊ついて来い！」

雄二は新校舎の空き教室に向かっていった。

葵「絶対罠だよな」

「多分ね」

麗奈「・・・知らせなくてもいいの？」

和哉「代表にも策があるんだと思うよ」

ガラッ！

B1「え？何故人がいるんだ！？」

B2「話と違うじゃないか！」

突然、Bクラスの二人が教室に入ってきた。

葵「え？・・・Bクラスのお二方、何が用でもありましたでしょうか？」

B2「仕方ない！向こうはFクラスなんだ！サツサと片付けて、やることすまずぞ！」

B1「了解！！斎藤先生！あのFクラスの3人に現代社会勝負を申し込みます！サモン！」

B2「サモン！」

葵・和哉・麗奈「」「サモン！」「」

・現代社会

B1（196点）・B2（184点）

VS

川崎葵（796点）・一ノ瀬和哉（18点）

水無月麗奈（2点）

麗奈「・・・歴史系は問題文が漢字ばかりだから無理」

葵「麗奈は仕方ないとして、和くん・・・」

「ごめんなさい・・・」

B1「ちょ？なんだよその点数！！」

B2「勝ち目ないじゃないか！」

葵「で、ここになにしにきたの？」

B2「言う訳ないだろ！？」

葵「そう、ならさようなら（ニコ）」

スパン！スパン！

Bクラス2人の召喚獣は一瞬にして葵の召還獣に一閃され、戦死した。

鉄人「戦死者は補修ー！」

B1「鬼の補修はいやだー！」

B2「助けてくれー！！」

葵「ねえ、あの人たちなにしにきたんだろうね？」

「宗くんや優璃さんに聞いてみる？」

麗奈「・・・宗くんならなにかわかるかも」

ガラッ！

雄二「今戻ったぞ、ところでさっきBクラスの二人を抱えている鉄人とすれ違ったが・・・お前らか？」

そこにちょうど代表が戻ってきた。

葵「補修はいやだからね」

雄二「そうか」

ガラッ！

明久「ただいま」

秀吉「ただいまなのじゃ」

姫路「只今戻りました」

島田「戻ったわよ。ねえ坂本、アンタBクラスと協定結んだの？」

雄二「ああ、四時以降は試召戦争を禁止して翌日の9時から再開するというものだ」

明久「どうしてそんな協定結ぶのさ！？こっちのモチベーションが下がりがねないよ！！」

雄二「・・・たまには的を得たことを言うんだな、明久」

代表は明久の発言に心底驚いたようだ。

明久「たまには余計だよ!!」

雄二「まあ待て、理由は姫路の体力が持たないからだ」

明久「姫路さんの?」

雄二「今の主戦力は姫路なんだ、姫路がまともに戦えなければ下校時間まで続けても不利になるだけだ」

島田「なるほどね、そういうことなら」

康太「・・・雄二」

いつのまにか近くにいた康太が雄二を呼んだ。

雄二「どうした? ムツツリーニ」

康太「・・・Cクラスの様子が怪しい」

雄二「なんだと!・・・漁夫の利狙いか」

秀吉「流石にBのあとCと連戦なんてことになると思勝ち目がないぞい」

島田「どうするのよ!？」

雄二「そうだな・・・Cクラスと不可侵条約を結ぶか」

「それは協定違反じゃないかな? たしか協定内容には『試召戦争に関わる一切の行為を禁止する。』って言ってたし」

葵「最悪の場合、Cクラスに潜んでいて、不可侵条約を結んだ瞬間仕掛けてくる可能性だってある。それに、C代表って茶道部の小山さんでしょ?」

康太「・・・(コク)」

葵「この前、B代表と2人でお話してたよ?」

康太「・・・俺の知らない情報・・・だと!？」

島田「で、でも、流石にそこまで考えてないんじゃない?」

雄二「・・・いや、B代表はあの根本だからな、充分考えられる」

麗奈「・・・根本?」

秀吉「カンニングの常習犯で窃盗など当たり前、喧嘩にはナイフを携帯しているという”卑怯者”の根本かの?」

和哉「そのCクラス代表の小山さんってかなり趣味悪いね」

康太「・・・顔はいいのにもつたいない」

雄二「だが、このままって訳にもいかねえ・・・いや、いい策を思いついた」

明久「ほんと！？」

雄二「ああ、作戦は明日話すから今日は解散だ！」

Cクラスにて。

根本「くそ！何故奴らがこないんだ！」

小山「恭二、クラスの皆を帰らしていいかしら？」

根本「あ、ああ」

小山「皆、もう帰ってくれて構わないわ！」

根本「仕方ない、この前盗んでおいた”コイツ”で姫路を脅すか」
その手には姫路が書いたラブレターをもっていた。

第10話&11；Bクラス戦・開戦！>；（後書き）

次回、転校生がもう1人来ます。

ご意見、ご感想がありましたらよろしくお願いします。

第11話&12:遅れてきた転校生とFクラスの作戦&8t;(前書き)

フラグってたてるの難しいですね・・・

第11話 & 1 t ; 遅れてきた転校生とFクラスの作戦 & g t ;

問題 4

以下の問いに答えなさい

(1) $4 \sin X + 3 \cos 3X = 2$ の方程式を満たし、かつ第一象限に存在する X の値を1つ答えなさい。

(2) $\sin(A+B)$ と等しい式を示すのは次のどれか、 $?$ $?$?
の中から選りなさい。

? $\sin A + \cos B$? $\sin A - \cos B$? $\sin A \cos B$? $\sin A \cos B + \cos A \sin B$

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎の答え

(1) $X = \pi / 6$

(2) ?

教師のコメント

正解です。角度を『 $。$ 』ではなく『 π 』でかいてありますし、いうことありません。

土屋康太(武内薫)の答え

(1) $X =$ およそ(多分) $3 (\pi / 6)$

(2)

教師のコメント

ごまかしたい気持ちもわかりますが、これでは回答に近くても点数はあげられません。

あと、武内さんは正解ですが真面目にやってください。

吉井明久の答え

(1)

(2) およそ？

教師のコメント

先生は今までたくさんの生徒を見てきましたが、選択問題でおよそをつける生徒は君が初めてです。

次の日。

優子 side

朝の通学路にて。

(寝坊したー！急がないと遅刻して・・・(ドン！))

向こうから歩いてきた柄の悪そうな3人のうちの一人にぶつかってしまった。

「あ、すみません」

男a「いつてーな！どこみてやがんだ！」

男b「これ骨おれちゃったかもな」どうしてくれんだ！慰謝料払えや！」

男c「まあ金なんて持ってないだろうから代わりに少し遊ばっぜ」

「はい？ふざけないで！」

男a「まあ、いいじゃねえか。一緒に楽しいことしようぜ？」

「嫌だつて言つてゐるでしょ!!」

男b「ちつ、しょうがねえ、力づくでいくな。。」

「え?ちよ、ちよつと・・・(誰か助けて・・・!)」

柄の悪そうな男たちの一人がアタシの腕をつかもうとしたとき、

男a「ぐあつ!」

男b「おい!?!どうすぐほつ!?!」

不意に鈍い音が響き、その男は倒れた。更に次の瞬間には、もう一人、気絶していた。

その横に、文月学園の制服を着た男子がたっていた。

男c「な、なんだお前は?!」

蓮「さあ?誰でしょう?」

男c「てめえ、なめやがつ(バキッ!)腕がああー!!?!」

蓮「さてと・・・(バキボキ)」

男c「待つてくれ!?!助けてくれ!」

蓮「んー・・・いいですよ、その代わりそこに転がつてる2人を連れてつて下さいね」

男c「わ、わかった(ガタガタ)」

そう言つてその男は2人を連れて逃げていった。

蓮「大丈夫?怪我、してない?」

「え、ええ。大丈夫、ありがとう。(か、かつこいい／／／)」

蓮「君も文月学園の生徒なんだね?」

「え、ええ、そうよ」

蓮「なら学園まで一緒にいきますか?」

「え?／／／」

蓮「さつきみたいな連中に絡まれると厄介ですし、今からだと走つた所で遅刻確定ですから・・・大丈夫ですか?さつきからずっと顔真っ赤ですけど・・・」

「ふえ!?!／／／だただ大丈夫よ!?!・・・えつと・・・」

蓮「あ、神楽坂 蓮といます」

「え!?!じゃあ転校生の・・・／／／」

蓮「ん？知ってるってことは2-Aクラスですか？」

「ええ、木下 優子よ、よろしくね神楽坂君／＼」

蓮「蓮でいいですよ、そろそろ学園に行きましよう、木下さん。遅刻とはいえ早く行っただほうがいいでしょうから」

「え、ええ／＼そうね／＼」

優子 side out

その頃学園では。

Fクラスにて。

雄二「昨日いつていた作戦を実行する！！」

明久「作戦？でも開戦はまだだよ？」

雄二「明久Bクラスにじゃないぞ？」

明久「へ？」

雄二「Cクラスだ」

明久「なるほど。何をするの？」

雄二「秀吉にコイツを来てもらう」

雄二はそういつて女子の制服を取り出した。

和哉「代表・・・そうゆう趣味が・・・？」

雄二「ちがうわ！」

秀吉「別に構わんが、ワシが女装してどうするんじゃ？」

葵「少しは嫌がろうよ・・・」

雄二「ああ、秀吉にはAクラスの木下優子を装ってもらう。秀吉、これに着替える」

秀吉「うむ。」

そういつて秀吉は着替え始めた。

康太「・・・・・・・・！！（パシャパシャパシャパシャ！）」

葵「秀吉君・・・そんなことしてるから女の子にみられるんじゃ・・・」

？」

秀吉「よし、着替え終わったぞい。ん？皆どうした？」

気がつくとFクラスのほとんどの男子が鼻血を噴いて倒れ、姫路と島田は膝について落ち込んでいる。

和哉「さあね？」

秀吉「？おかしな連中じやの」

雄二「んじゃ、Cクラスに行くぞ」

秀吉「うむ」

明久「あ、僕も行く！」

Cクラス前。

雄二「ここからは一人で頼むぞ秀吉」

明久「Aクラスの使者だから、Fクラスの僕らは一緒に行けないからね」

秀吉「気が進まんのう・・・」

そっぴいながら、秀吉はCクラスに向かっていった。

明久「雄二、秀吉は大丈夫なの？」

雄二「多分大丈夫だ」

明久「秀吉が教室に入るよ？」

雄二「明久静かにしろ」

秀吉がCクラスに入って行って・・・

秀吉（優子）「静かにしなさい！この薄汚い豚ども！」

明久「うわあ。これ以上はない挑発だね・・・」

雄二「流石秀吉だな」

小山「な、何よあんだ！」

秀吉（優子）「話し掛けなしで！豚臭いわ！」

小山「Aクラスの木下ね？なんの用よ！」

秀吉（優子）「私はね、こんな醜い教室があるのが我慢ならないの！貴方達なんて豚小屋で充分だわ！」

小山「何ですって！Fクラスがお似合いですって！？」

秀吉（優子）「手が汚れてしまうから本当は嫌だけど、特別に今回は貴女達を相応しい教室に送ってあげようかと思うの。ちょうど試験戦争の準備もしている様だし、覚悟しておきなさい。近いうちに私達が薄汚いブタの貴女達を始末してあげるから！」

そう言い残し、靴音を立ててCクラスから秀吉がでてきた。

秀吉「これで良かったかのう？」

雄二「上出来だ」

小山「Fクラスなんて相手にしてられないわ！ Aクラス戦の準備を始めるわよ！」

Cクラスの矛先は完全にAクラスに向けたようだ。

明久「作戦もうまくいったし、僕達も今日の戦争の準備をしよう。あと10分で始まるよ」

雄二「そうだな」

第11話&12:遅れてきた転校生とFクラスの作戦&8t;(後書き)

次回はBクラス戦の続きを投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

オリキャラ紹介(3)(前書き)

オリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介（3）

名前：神楽坂 蓮

読み：かぐらざか れん

性別：男

誕生日：6月8日

身長：173cm

体重：55kg

所属クラス：2-A

得意教科：数学・物理・化学

苦手教科：英語・古典

趣味：読書・ゲーム・写真を撮ること

特技：料理・スポーツならなんでも

外見：髪色は暗めの茶色で肩の近くまで髪が伸びている。

顔はカッコイイタイプではなく綺麗なタイプ。

性格：人当たりもよく、面倒見がいいが、やや天然で明久並の鈍感。
（それ故、かなりモテるのだがモテているという自覚ナシ）

喧嘩は嫌いだか、親友を傷つける奴や人の夢をバカにする奴には武力行使もいとわない。（その時の戦闘力は鉄人並）

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・明久と同じマンションに（一ノ瀬 和哉）と共に住んでいる。

・大財閥の跡取り息子で、親からも優秀な跡取りとして期待されているが、本人はまったく継ぐ気はないらしい。

・振り分け試験の時は3教科（4087点）しか受けなかったので、（神谷 優璃）に代表の座を譲ったが本人は楽しければそれでいいとのこと。

・過去のある出来事のせいで理不尽なことを極端に嫌う。

召喚獣の武器：右手にサーベル、左手にトンファー
召喚獣の服装：軍服
腕輪の能力：現時点では不明。

第12話&1t：バカと転校生たちの怒り>t；（前書き）

今回はBクラス戦の2日目です。

第12話&1t：バカと転校生たちの怒り>；

問題5

以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい。

・光は波であつて、（ ）である。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薫・
神楽坂蓮の答え

A・粒子

教師のコメント

正解です。特に言うことはありません。

土屋康太の答え

A・寄せては返すの

教師のコメント

君の回答には、先生はいつも度肝を抜かれます。

吉井明久の答え

A・勇者の武器

教師のコメント

先生もRPGは好きです。

明久side

そして午前9時よりBクラス戦が開始した。

僕たちは昨日中断されたBクラス前という位置から進軍を始めた。
秀吉「ドアと壁をうまく使うんじゃ！戦線を拡大させるでないぞ」
今回の雄二の作戦では『敵を教室内に閉じ込める』のが僕たち中堅部隊の役割らしい。

なので今は雄二の指示通り今はBクラス前が主戦場となっている。

「みんな！絶対1人で戦わないで！多対1に持ち込んで周りと協力して敵を倒すんだ！」

秀吉「勝負は極力単教科で挑むのじゃ！補給も念入りに行うんじゃ！」

（どうしたんだろ姫路さん・・・なにかあったのかな？）

このBクラス教室前での乱戦の中、姫路さんは戦いもせず、指示を出すわけでもなく、様子がおかしいので、今は秀吉が姫路さんの部隊を率いているが、

島田「左側入口がウチ以外ほとんど戦死して押し切られそうよ！援軍をお願い！」

F「右側入口も押し切られそうです！」

そう言われ、左側入口を見てみると、少しずつ押し戻されていて島田さん以外はかなり点数を消費していた。

「姫路さん！僕は右側の化学のほうで援護をするから、左側入口の数学のほうの島田さんたちの援護をたのんだよ！」

姫路「あ、あの・・・！」

（さっきから姫路さんの様子がおかしい・・・どうかしたのかな？）
須川「吉井！俺と横溝の部隊が左側入口の島田の部隊を援護してく

る」

「わ、わかったよ。なんとか持ちこたえて！（でも、姫路さんどうしたんだろ？さっきからずっとこの調子だし・・・）」

ふと姫路さんの視線の先を追ってみると、窓際で右手になにか紙らしきものもってこちらを見下ろしている根本くんの姿があった。

「！！（あれは・・・ラブレター？・・・もしかして姫路さんの・・・！）」

「秀吉！島田さん！ちよつとここを任せるよ！」

島田「何言ってるのよ！そんな余裕こっちにあるわけないじゃない！」

秀吉「どうしたんじゃ明久！？」

「ちよつとね。姫路さん、調子が悪いんだったら近衛部隊のところまで下がっていいよ」

姫路「・・・はい」

秀吉「！大体の事情は掴めたのじゃ、こっちはなんとかするから早く援軍を呼んできてほしいのじゃ！」

秀吉もどうやら気づいたみたいだ。

島田「どうしたのよ！？吉井に木下！瑞希まで下がっちゃったら10分も持たないわよ！？」

秀吉「島田よ、今は戦線を維持することに集中するのじゃ！」

島田「わかってるわよ！」

「すぐ戻るから！なんとかそれまで持ちこたえて！」

そう言つて、僕はFクラスへ走った。

Fクラスにて。

「雄二！」

雄二「脱走なら殺すぞ」

「話があるんだ」

雄二「なんだ？」

「根本君の着ている制服が欲しいんだ」

麗奈「・・・そういう趣味があるの？」

葵「趣味は人それぞれだからね」

「違うからね!？」

雄二「そうだな、勝利の暁にはそれくらいなんとかしてやろう・・・話はそれだけか？」

「それと、姫路さんを今回の戦闘から外して欲しい」

雄二「理由は？」

「理由は言えない」

雄二「どうしても外さなければならないか？」

「うん。どうしても」

雄二「・・・」

「頼む、雄二!」

和哉「・・・ねえ、もしかしてだけどさ、姫路さん、卑怯者に脅されたりしてるの？」

「何故それを!？あつ!？(しまった・・・)」

葵「へえ、そんなことする人がいるんだー(ゴゴゴゴ・・・!)」

麗奈「・・・詳しく聞かせて(ゴゴゴゴ・・・!)」

葵と麗奈は黒いオーラを出しながら明久に説明を求めた。

「・・・根本君が姫路さんが書いたラブレターらしきものをもってた」

雄二「なるほどな、内容をばら撒かなくなったら、戦線に加わるなどでも脅されてるんだろうな」

和哉「・・・代表」

雄二「なんだ」

和哉「今回の賭けは反則負けでいいですか？」

雄二「いいだろう、だがお前ら4人で姫路がやる予定だったクソヤローに攻撃を仕掛ける役をお前らでやれ・・・できるな？」

「もちろんさ!」

葵「わかりました!」

麗奈「・・・やってみせる！」

和哉「卑怯者に地獄をみせてやる！」

雄二「いい返事だ、俺はDクラスに指示をだしてくる、あとは任せたぞ！」

和哉「今回はとやかくいつてられないから見逃すよ・・・」

「3人とも、行くよ！」

そうして3人とともにもう一度Bクラスへと向かった。

Bクラス前。

根本「お前らいい加減諦めろよな。昨日から教室の出入り口に人が集まりやがって。暑苦しいことこの上ないっての」

雄二「どうした？軟弱なBクラスの代表サマはそろそろギブアップか？」

根本「ギブアップするのはそっちだろ？」

雄二「無用な心配だな」

根本「そうか？頼みの綱の姫路さんも調子が悪そうだぜ？」

雄二「お前ら相手じゃ役不足だからな。負け組代表さんよお」

根本「負け組？それがFクラスのことなら、もうすぐお前が負け組代表だな」

葵「どうやら間違いないみたいだね・・・！（ゴゴゴゴ・・・！）」

和哉「ただで済むと思うなよ！」

麗奈「・・・許さない・・・！（ゴゴゴゴ・・・！）」

葵「私たちが道をつくるから、吉井君は卑怯者を殺して！」

明久「任せて！」

和哉「葵、麗奈、秀吉のほうをお願い！」

葵・和哉・麗奈「」「サモン！！」「」「」

・左側入口（数学）

B1（189点）・B2（181点）・B3（148点）・B4（

201点)

B5(176点)・B6(169点)・B7(171点)

VS

島田 美波(213点)・須川 亮(43点)

一ノ瀬 和哉(631点)

B3「600overだ!?!」

B2「なんでFクラスにこんなヤツがいるんだよ!」

和哉「・・・”自爆”!」

そついうと和哉の召喚獣が光ながらBクラスの召喚獣に突撃して・・・

・爆発した。

・左側入口(数学)

B1(0点)・B2(0点)・B3(0点)・B4(0点)

B5(0点)・B6(0点)・B7(0点)

VS

島田 美波(213点)・須川 亮(43点)

一ノ瀬 和哉(1点)

和哉「明久!左側入口から行けるよ!」

根本「チッ!右側入口の半分は左側に移動し・・・」

根本が右側入口の部隊に指示するが・・・

・右側入口(化学)

B8(0点)・B9(17点)・B10(32点)

B11(31点)・B12(0点)

VS

木下 秀吉(47点)

川崎 葵(413点)・水無月麗奈(327点)

葵「和くん、右側のほうももうすぐ終わるよ！」

右側入口の防衛をしていたB生徒も葵と麗奈の圧倒的点数の前にすでに壊滅状態だった。

根本「な、なんでFクラスに何人も高得点者がいるんだよ!？」

明久「鉄人！B代表に日本史勝負を申し込みます！」

鉄人「鉄人いうな!・・承認！」

B13「近衛部隊が受ける！」

根本「ふっ、ははっ!だが残念だったな!もうすぐ、前線部隊が戻ってくるからなあ!お前らの奇襲は失敗だ!」

「くっ!（だけど、僕の役目は達成したよ!）」

和哉「ムツツリー二ー!!」

和哉がそう叫ぶと保健体育教師・大島先生を連れてムツツリー二が窓から飛びこんできた。

根本「なっ!?!窓からだと!?!」

康太「・・・Fクラス土屋 康太、Bクラス代表根本 恭二に保健体育勝負を挑む・・!サモン！」

根本「うわあああー!!!!!!」

・保健体育

土屋 康太（542点） VS 根本 恭二（203点）

ムツツリー二の召喚獣が根本の召喚獣を小太刀で一閃。

Bクラス代表、根本戦死。

鉄人「戦争終結!!勝者・・Fクラス!!」

第12話&1t：バカと転校生たちの怒り>；（後書き）

今回はFクラスとBクラスの戦後対談の前にFクラスの策によってとばっちりを受けたAクラスの話です（笑）。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

第13話&14：Fクラス対Bクラスの裏で・・・&15；（前書き）

今回はFクラス対Bクラスの試召戦争の間のAクラスの話です。

第13話<math>1t;F</math>クラス対Bクラスの裏で・・・>

問題6

問・ベンゼンの化学式を答えなさい。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮
の答え

A・ C_6H_6

教師のコメント

正解です。君たちには簡単すぎましたね

土屋康太の答え

A・ベン+ゼン=ベンゼン

教師のコメント

君は化学を舐めていませんか。

吉井明久の答え

A・B-E-N-Z-E-N

教師のコメント

後で土屋君と一緒に職員室に来るように。

B 対 F の試召戦争中。

A クラスにて。

優子「愛子、おはよう」

愛子「優子遅かったね」

優子「ええ、少し寝坊しちゃって」

高橋先生「皆さん席について下さい、転校生が来たので紹介します」

宗一郎「まったく、やっと来るかと思ったら初日に遅刻とはな」

薫「運くんらしいけどね」

高橋先生「神楽坂君、入って来て自己紹介をお願いします」

蓮「神楽坂 蓮です。一年間よろしくお願いします！」

A 女「か、かつこいい・・・！」

A 女「彼女とかいるのかな・・・？」

高橋先生「では、私は試召戦争の立ち会いにいってきますので、各自自習しててください」

そう言つて、高橋先生は教室から去つていった。

宗一郎「やっときたか、蓮」

蓮「もうすこし早く来る予定だったんだけどね」

愛子「君が神楽坂君か」

蓮「えつと、君は？」

愛子「工藤 愛子だよ、ヨロシクね」

蓮「うん、よろしくね」

優子「あ、あの、さっきはありがとうございました！／＼／＼」

蓮「ん？木下さんか、どういたしまして」

優璃「あれ？優子さん、蓮ちゃんと面識あるの？」

優子「ええ、朝に変な人たちに絡まれているところを助けてもらったのよ」

蓮「そういうこと、ちょっと職員室に用事あるからいつてくるね」

優璃「わかったー」

そう言つて、蓮は教室から出て行つた。

薫「蓮くんは困つてゐる人は放つておけない子だからね」

愛子「なんかかつこいいよね、そういうの。優子も惚れちゃったんじゃないの？」

と、優子をからかうように愛子は言つた。

優子「な、何言つてんのよ！？／／／そんな訳ないでしょ！？／／／」

愛子の言葉に優子は頬を赤く染めながらそう反論したが、

宗一郎「ほう、木下が蓮をねえ・・・」

愛子「冗談のつもりだったんだけどね」

薫「蓮くんは鈍感だから、がんばらないとね、優子ちゃん」と、三人そろつてニヤニヤしながら優子に向かってそう言つた。

優子「ちょ？／／／ちが！？／／／」

翔子「・・・優子顔真っ赤」

優子「／／／」

バタンツ！

小山「木下 優子はいるっ！？」

急に扉を開け飛ばし、Ｃクラス代表が教室に入ってきた。

利光「なんだい？騒々しいね」

優子「アタシに何か用かしら？」

小山「木下 優子・・・私達を豚呼ばわりして・・・許せないわ！！」

優子「はい？」

小山「まだと惚ける気！いいわ、我々ＣクラスがＡクラスに宣戦布告するわ！」

宗一郎「は？話がまったく見えないんだが・・・」

優璃「わたしも全然意味がわからない・・・しかも宣戦布告されちゃったし・・・」

利光「君はＣクラス代表の小山さんかい？木下さんは遅刻してきてさつききたところだよ」

小山「そんな嘘には騙されないわよ！」

蓮「戻ったよー・・・ってどうかしたの？」

そこに蓮がもどってきた。

薫「えつとね、Ｃクラスの代表さんが木下さんに今日の朝罵倒され
たんだって、で腹いせに試召戦争を申し込まれたんだよ」

小山「そうよ！私たちには豚小屋がお似合いですって！？訂正しな
さいよ！」

優子「いや、訂正もなにもアタシいま登校してきたところなんだけ
ど」

蓮「うん、木下さんと一緒にさっき来たところですよ？」

小山「じゃ、じゃあ誰なのよ！？たしかに、アンタだったわよ！？」
と小山は優子を指差しながら言った。

優璃「・・・ねえ、優子さん、たしか双子の弟がいるんでしたよね？」
と、優璃は思案顔のまま優子にそう尋ねた。

優子「え、ええ、いるわよ。」

宗一郎「！なるほどな、Ｆクラス代表・・・なかなか姑息な手を使
つてくれるじゃないか」

薫「どゆこと？」

蓮「んゝ優璃たちはＣクラスの人たちを罵倒したのは、木下さんじ
やなくてＦクラスに所属している弟だと考えてるわけだね？まあ木
下さんにはそんな時間なかったから違うのはわかってるんだけどね」
優璃「うん、麗奈や和くんに聞いた話なら、見分けがつかないほど
らしいから」

優子「・・・秀吉に話聞いて来るわ・・・！（返答次第じゃ身体中の
関節外してやる！！）」

優璃「今は試召戦争中だから、Ｆクラスには立ち寄れないですよ？」

蓮「そうだよ、一旦落ち着いて（ナデナデ）」

蓮は優子に声を掛け、頭を撫でて優子を宥めた。

優子「え？／／／あ、あの、その／／／（なんか物凄く落ち着くわ
・／／／）」

愛子「優子気持ち良さそうだね」（ニヤニヤ）」

優子「はっ！？／／愛子何言ってるのよ！／／／」

宗一郎「話戻すぞ・・・」

蓮「そうだね」

優璃「蓮くんが言わないでよ・・・」

蓮「??」

宗一郎「続きだ、FクラスがCクラスを何故ウチに仕向けたかだが・
・CクラスとBクラスが同盟関係にあるからだな」

小山「何故それを知ってるのよ!？」

宗一郎「企業秘密だ。FクラスがCクラスを焚きつけた理由なんて
それくらいしかないだろ・・・で、優璃、どうする？」

優璃「もう申し込まれたちゃったし、Cクラスの皆さんには悪いけど、負けるわけにはいかないからね」

宗一郎「まあ、冷静に考えれば、勝てる訳ないのにな、無能代表の
せいでCクラスの連中はDクラスの設備行きだな」

と、宗一郎は皮肉たつぷりにそう言った。

小山「誰が無能よ!」

無論、小山は怒鳴りながら、宗一郎に詰め寄っていった。

薫「優璃、なんとかしてよ」

優璃「う、うん。小山さん、今降伏するなら、設備は見逃します。

その代わり、色々条件を飲んでもらいますけど」

と、優璃が小山に対して、降伏勧告をするも・・・

小山「うるさいわよ!誰が降伏なんてするもんですか、開戦は午後
からよ!首洗って待ってなさい!」

完全に頭に血が上ってる小山が聞く耳持つはずなかった。

第13話&14：Fクラス対Bクラスの裏で・・・>（後書き）

次回は明日か明後日にAクラス対Cクラスの話を投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしく願います。

あとできればいいので、小説の評価もよろしく願います。

第14話&15：Aクラス対Cクラス>（前書き）

総合PV10000、ユニーク2000を突破しました！

これからも『バカと天才？たちと召喚獣』をよろしくお願いします。

今回はAクラス対Cクラスの話です。

第14話&15:Aクラス対Cクラス>

問題7

問・女性は（ ）を迎える事で第二次成長期になり、特有の体付きになり始める。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・神楽坂蓮の答え

A・初潮

教師のコメント

正解です。

土屋康太・武内薫の答え

A・初潮と呼ばれる生まれて初めての生理。医学用語では、生理の事を月経、初潮の事を初経という。初潮年齢は体重と密接な関係があり、体重が41.5kgに達する頃に初潮を見るものが多い為、その訪れる年齢には個人差がある。日本では平均12歳。また、体重の他にも初潮年齢は人種、気候、社会的環境栄養状態などに影響される。――裏面に続く。

教師のコメント

詳しくすぎます。

保健体育教師「先生のプライドを打ち砕かないでください・・・」

吉井明久・一ノ瀬和哉の答え

A・明日

教師のコメント

ずいぶんと急な話ですね。吉井くんがこの答えなのはわかりますが、一ノ瀬くんは意外ですね。

桐谷宗一郎の答え

A・初恋

教師のコメント

たしかに恋は人を変えるといいますが間違いです。しかし桐谷くんがこんな問題を間違えるとは思いませんでした。

優璃side

「というわけで、Cクラスに宣戦布告されましたので、今から作戦の説明を・・・宗くん、頼むね」

宗一郎「わかった。今回は相手もこちらでも召喚獣を使い慣れてないだろうから、単純に力押しで行く。なるべく1対1で戦ってくれ。

あと、点数が100点以下になったら、すぐ回復試験を受けること。加えて召喚獣の操作のコツを掴んでもらおうと思っている。だから今回は前衛部隊に30人、中堅部隊に15人ずつ配置する。」

利光「まってくれ！それじゃあ、代表の護衛がないじゃないか！？」

久保くんは作戦に関して反論を述べたが、

宗一郎「いや、俺と薫と蓮と霧島で近衛部隊を引き受ける」

と宗くんが付け加えた。

利光「まあ・・・それなら大丈夫だね」

久保くんも納得したみたいです。

薫「まあ、護衛なんかいなくても、優璃ならCクラスがよってたかったところで勝てないだろうけどね」

宗一郎「作戦は以上だ、質問ある奴いるか？」

・・・シーン・・・

宗一郎「ないな、なら開戦まで自由にしていてくれ」

優璃 side out

そして午後になり、Aクラス対Cクラスの試召戦争が開戦した。

廊下にて。

・総合教科

久保 利光（3947点）・A前線部隊29人（平均2500点）
VS

C前線部隊・中堅部隊25人（平均1650点）

C「な、なんでこんなに前衛にいるんだよ!？」

C「早く援軍呼んでこい!突破されちまうぞ!」

利光「極力1対1で戦うんだ。点数を消費した者は無理する必要はないから、回復試験へ行くんだ!」

戦況は開戦直後からAクラスの前線部隊の人数の多さ、加えて元々の地力の差でCクラスを圧倒していて、Cクラスの前線部隊と中堅部隊はどんどん戦死し数を減らしていった。

優子「アタシたちの出番はなさそうね」

愛子「そうだね」

蓮「二人とも暇そーだね」

愛子「あれ？神楽坂君、近衛部隊じゃなかったっけ？」

蓮「Cクラスの生徒なんて誰一人来ないからね、優璃に許可もらって前線の様子を見にきたんだ」

愛子「まあ、中堅部隊のボクたちでも暇してるくらいだからね」

小山「なにやってんのよ!？」

戦況差が圧倒的すぎ手が余り3人で雑談していると、C代表の怒声が飛んできた。

C「無茶いうなよ!？相手はAクラスだぞ!」

C「なんとかしろよ代表!？」

A「あいつがC代表だ!皆かかれー!」

小山「近衛部隊!早く守りなさい!」

C「なら、なんでそんなに前線にでくんだよー!？」

小山「とにかく教室までひいて籠城するわよ!」

Aクラスにて。

宗一郎「話にならん」

優璃「ちよつと可哀想だけどね」

薫「戦況はどうなってるの？」

翔子「・向こうの戦力は5割戦死、3割は戦死寸前・・こっちは戦死が2人、2割ほどが回復試験をつけてる」

宗一郎「あと30分もかからんだろ」

A「回復試験終わりました!」

優璃「うん、前線にいつて皆と戦ってきて!」

A「了解しました!」

Cクラスにて。

小山「何なのよ一体!？」

C「どうすんだよ・・・勝てるわけねえよ」

早くもCクラスは敗戦ムードで意気消沈していた。

加藤「案の定無策で上位クラスに突っ込んでボロ負けって、無能にもほどがあるで」

小山「文句があるならアンタがなんとかしなさいよ！」

加藤「無茶いうなや、もうこっちの戦力は8割方瀕死状態なんや、こんなんでどないしろと？そもそもワイ以外にAクラスの奴を戦死させたやつおんのか？」

シーン・・・

加藤「・・・ホンマに誰もおらんのか」

A「そのCクラスのヤツに世界史勝負を申し込む！サモン！」

箆城策もあっさりやぶられ、Aクラス生徒がCクラスになだれ込んできた。

加藤「ほいほーいっと、サモン！」

・世界史

加藤 寿也（483点）

vs

A1（296点）

加藤「その程度でワイに勝とうなど10年早いわー！」

A「なっ！？お前Cクラスだろ！？」

加藤「んなもん関係あるかい！」

そう言うと同時に加藤の召喚獣が相手の召喚獣を真つ二つにしていた。

加藤「代表、ワイは大人しく降伏すべきやと思うがの」

小山「いやよ！」

加藤「ならお前の首もってAクラスと交渉するまでや！」

小山「え？」

そう言うと同時に加藤の召喚獣が小山の召喚獣を切り飛ばした。
加藤「あほらしい、これ以上付き追うてられるかい・・・！」

鉄人「・・・戦争終結！！勝者・・・Aクラス！！」

宗一郎 side

Aクラスにて。

A「最終的には何故か仲間割れを起こしてC代表はCの生徒に戦死させられました」

「そうか、・・・そこまで信用ないってある意味すごいな、あの無能代表」

バンツ！

加藤「失礼すんで、Aクラス代表いなはるか？」

教室に大柄な生徒がそういいながら入ってきた。

優璃「はい、私ですが・・・」

加藤「Cクラスの加藤や。さっきはウチの代表が失礼したな・・・少し提案があるんやけど聞いてもらってええか？」

優璃「なんででしょうか？」

「一応、聞こうか」

加藤「条件付きで設備ダウンを見逃してくれへんか？」

利光「最初にそれを蹴ったのはそっちなんだから、それは無理だね」

「まあ待て、その条件は？」

加藤「Aクラスへの1学期の間は戦争禁止、加えて3ヶ月はAクラスの指示がない限り、全クラスへの戦争禁止でどないや？」

「（ほう、条件としては悪くないな・・・）後一つ、Cクラス代表のAクラスへの立ち入り禁止をくわえるならいいだろう」

加藤「それくらいなら構わへんで」

利光「立ち入り禁止？そんなことする必要あるのかい？」

「いや、個人的にヒステリック小山の金切り声が鬱陶しくてな（逆恨みされて文句言われるのは勘弁だからな）」

薫「あはは・・・、本音と建前が逆になってるよ・・・？」

「代表の自覚もなく、罵倒されたくらいで、冷静な判断もできないヤツなのか？」

愛子「あはは・・・否定できないね・・・」

優璃「わかりました、なら和平交渉にて終戦ってことでいいですよ」
加藤「おおきに！それじゃあ、用済んだから、帰らしてもらっわ。
ほな、さいなら。」

そういつて加藤はAクラスから立ち去った。

A「なあ、たしか加藤ってAクラス候補だったよな？」

A「だよな、なんでCクラスにいるんだ？」

バンバン！

「全員注目！今から点数を消費した者は回復試験を受けてもらう、
点数を消費した者は俺が優璃に申告してくれ！（加藤か・・・調べて
おく必要があるな）」

俺は教卓を叩いて、Aクラスの生徒にそう言い放った。

薫「私は教室で寝ただけだからね」

「点数を消費してない者は下校時刻になったら帰ってくれて構わない、
以上だ」

優璃「でもさ、Fクラス代表・・・坂本君だっけ？・・・いくらなんでも
やり過ぎだよ」

優子「・・・（秀吉・・・命の保証はないわよ・・・！）」

翔子「・・・雄二にはお仕置が必要」

「Fクラス代表には一回キツイお灸を据えてやるか」

第14話&15: Aクラス対Cクラス>(後書き)

今回は近日中にオリキャラ紹介をした後、BクラスとFクラスの戦後対談の話を投稿する予定です。

ご意見、ご感想や誤字脱字等ありましたらよろしくお願いします。
ついでに小説の評価もよろしくお願いします。

オリキャラ紹介（4）（前書き）

Aクラス対Cクラス戦ででてきたオリキャラの紹介です。

オリキャラ紹介(4)

名前：加藤 寿也

性別：男

読み：かとう としや

誕生日：4月7日

身長：196cm 体重：87kg

所属クラス：2-C

得意教科：日本史(503点)、世界史(499点)、保健体育(407点)

苦手教科：古典(123点)

趣味：筋トレ・マラソン

特技：持久走(鉄人並)

外見：髪色は黒で、髪型は短髪でボサボサ。体格は鉄人とかわからないくらいで、制服を着てないと教師と間違えられる。

性格：基本めんどくさがり。だが、人に頼み込まれたら断れない性格。

・関西弁が特徴？

・振り分け試験では、振り分け試験で得意教科3教科を名前無記名で提出してしまい、Cクラス次席(1707点)でCクラス入りした。(ちなみにCクラス代表・小山は1711点)

・本来ならAクラスの佐藤 美穂と大差ないくらいの学力(総合で3316点)をもっており、Cクラスの生徒からの信頼も厚い。(クラスの大半の生徒が小山よりも代表に相応しいと思っている。)

・試召戦争には興味がなく、ある程度のクラス設備ならどこでもいいとのこと。

召喚獣の武器：大剣

召喚獣の服装：柔道着

腕輪の能力：現時点では不明。

オリキャラ紹介(4) (後書き)

次回は明後日までにFクラスとBクラスの戦後対談の話を投稿する予定です。

第15話&16:戦後対談>(前書き)

今回はBクラスとFクラスの戦後対談の話です。

第15話&16：戦後対談>

問題8

問・人が生きていく上で必要となる5大栄養素をすべて書きなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・神楽坂蓮の答え

A・脂質、炭水化物、タンパク質、ビタミン、ミネラル

教師のコメント

正解です。流石といったところでしょうか。

桐谷宗一郎（武内薫）の答え

A・薫（宗くん）がいればなにもいらない！

教師のコメント

まさか君たちからそんな回答がでくるとは思いませんでした。

吉井明久の答え

A・砂糖、塩、水道水、雨水、湧水

教師のコメント

それで生きていけるのは君だけです。

明久 side

終戦後、Bクラスにて。

雄二「さて、それじゃ嬉し恥ずかし戦後対談と行くか。な、負け組代表？」

根本「……………」

雄二との視線の先には、先ほどまでの強気がウソの様に大人しくなった根本が床に座り込んでいる。

雄二「本来なら設備を明け渡して貰い、お前らには素敵な卓袱台をプレゼントする所だが、特別に免除してやらんでもない」

B「なんだって!？」

F「何故だ!坂本!」

雄二の発言に対して、周囲が騒ぎ始める。

雄二「落ち着け皆。前にも言ったが、俺達の目標はAクラスだ。ここがゴールじゃない」

葵「やっぱりAクラスに仕掛けるんだね」

雄二「ああ。だから、Bクラスが条件を呑めば解放してやろうと思っ
っている」

Bクラスの生徒も3ヶ月間ボロボロの教室に縛られる可能性からの脱却ともあり、雄二に視線が集まる。

根本「……………条件はなんだ？」

雄二「条件? それはお前だよ、負け組代表さん」

根本「俺、だと?」

雄二「ああ。お前には散々好き勝手やって貰ったし、正直去年から目ざわりだったんだよな」

根本「……………」

雄二「そこで、取引だ。Aクラスに行つて、試召戦争の準備が出来
てると宣言して来い。そうすれば今回は設備については見逃してや
つても良い。ただし、宣戦布告はするな。すると戦争が避けられな

いから、あくまで戦争の意思と準備があるとだけ伝えるんだ」

根本「・・・それだけでいいのか？」

和哉「そんな訳ないじゃん」

葵「君はやってはいけないことをしたんだからね」

麗奈「・・・相応の罰が必要」

3人が根本の希望をあつさりと打ち砕くようにそう言い放った。

雄二「そういう事だから、Bクラスがコレを着て先程言った通りの行動をしてくれたら、見逃そう」

そう言つて雄二が取り出したのは、秀吉の変装の為に用意しておいた女子制服だった。

根本「ば、バカな事を言うな！この俺が、そんなふざけた事を！」

B「Bクラス生徒全員で、必ず実行させよう！」

B「任せて！必ずやらせるから！」

B「それだけで教室を守るなら、やらない手はないな！」

和哉「やっぱり評判悪いんだね、卑怯者君」

雄二「んじゃ、決定だな」

根本「くっ！ よ、よるな変態ぐふうっ！！」

逃げようとした根本だが、Bクラスの面々が取り押さえ腹部に一撃。

B「とりあえず、黙らせました！」

雄二「お、おう。ありがとう」

和哉「手間が省けましたね。早速着付けに入りましょう」

そういつて、和哉は根本の制服を脱がし始めた。

和哉「・・・男の服を脱がすつて、思った以上に苦痛ですね・・・」

「うん、でも、目的のため・・・（吐き気が・・・）」

根本「う、うう・・・」

和哉「ん？明久、少し離れてて」

「うん（何する気だろ?）」

和哉「おやすみー」

ボコッ！

根本「がふうっ！！」

うめき声を上げる根本から僕を離し、和哉は根本の腹部に一撃。そして、根本の服を脱がし切った後、女子の制服をあてがった。

「うーん・・・これどうやって着せるんだろ？」

和哉「その前に順序はあつてゐるんですか？」

B女「私がやってあげるよ」

「そう？　じゃあ折角だし、可愛くしてあげて」

僕はBクラスの女子生徒にそうお願いしたが、

B女「それは無理。土台が腐ってるから」

和哉「酷い言い様ですね・・・ぼくはこの制服を捨ててから、手を消毒してきますね」

秀吉「お主のほうがよくばど酷いがのう・・・」

僕は根本の制服を探り、姫路さんのラブレターを取り出した。

「あつたあつた」

そして、僕は姫路さんのラブレターを返すためFクラスへ向かった。

明久side out

秀吉side

明久が教室に向かった後、姫路が教室に入っていく姿を見つけた葵殿とワシはニヤリと笑った。

葵「明日の姫路さんの報告が楽しみです」

「まあ明久じゃから、あまり期待は出来んじやろうかな？」

葵「いくら鈍感でもさすがに気づかないかな？」

「そこは明久じゃからの・・・」

根本「こつ、この服、やけにスカートが短いぞ!？」

ふと、聞こえて来た叫び声。

見てみると、そこには女子制服を纏い髪にリボンを付けた根本と吐きそうになっている和哉の姿が。

和哉「自分で提案しといてなんだけど、おぞましいですね・・・」

「は、吐きそうじゃ・・・（なんてものをみせてくれるのじゃ!）」
根本「Fクラスの奴ら!よく俺にこんなことを!」

B「すまないFクラスの方々、これから撮影会があるから急がないといけないんだ」

根本「き、聞いてないぞ!？」

B「無駄口をたたくな!! ほら、キリキリ歩け!」

葵「さて、秀吉くん、Cクラスの人たちと秀吉くんのお姉さんに謝りにいこっか」

「へ?何故じゃ!？」

葵「何故ってそりゃあ、Cクラスの人を焚きつけるためにお姉さんのふりしてCクラスの人を散々罵倒したんでしょ?」

「そ、そうじゃが・・・あれは、作戦だったから仕方ないのじゃ!」
バチンッ!

葵殿がワシの頬をひっぱたいた。

「え?・・・なにをするのじゃ!？」

葵「ふざけないで!じゃあ何?作戦だったら何してもいい訳!？」

葵殿は明らかにいつもと違う・・・怒りのオーラをまとって、ワシにそう言い放った。

「あ、あれは演劇の一環で・・・」

葵「今の秀吉くんに人の前で演劇をする資格なんてない!」

「な!?!何故そんなこというのじゃ!!ワシだって必死に演劇の練習をしてるのじゃ!!」

葵「人の気持ちも考えない様な人に人に魅せる演劇なんてできる訳ないし、そんな人に演技なんてしてほしくない!!」

「うつ!?!じゃが・・・」

葵「もういい・・・私はAクラスにいつて来るから・・・!」

葵殿は怒りながらワシにそう言い放ち、Aクラスへ向かっていった。

第15話&16:戦後対談>(後書き)

はぁ・・・なんかgdgdだし・・・文才がほしい・・・

ご意見、ご感想や誤字脱字等ありましたらよろしく願います。
ついでに小説の評価もよろしく願います。

次回はAクラスに向かった葵の話とその後の秀吉の話です。

第16話&17:謝罪と秀吉の後悔&87;(前書き)

徐々にですが、1日のPV・ユニークが増えてきて嬉しい限りです。

第16話&17:謝罪と秀吉の後悔>

問題9

バルト三国と呼ばれる国名をすべてあげなさい。

姫路瑞希・川崎葵・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え
A・リトアニア、エストニア、ラトビア

教師のコメント
その通りです。

一ノ瀬和哉の答え
A・魏、呉、蜀

教師のコメント
先生も三国志は好きです。

武内薫の答え

A・ドイツ、オーストリア、イタリア

教師のコメント
それはバルト三国ではなく三国同盟です。

土屋康太の答え

A・アジア、ヨーロッパ、浦安

教師のコメント

土屋君にとっての国の定義が気になります。

吉井明久の答え

A・香川、徳島、愛媛、高知

教師のコメント

正解不正解の前に、数が合っていないことに違和感を覚えましょう。

葵 side

Bクラス対Fクラスの試召戦争終戦後。

Aクラスにて。

パタンッ！

「失礼します」

薫「あれ？葵、Aクラスに何か用？」

「うん、木下さんいるかな？」

薫「優子？ちよつと待ってね」

「うん」

薫が木下さんを連れて戻ってきた。

（・・・秀吉くんにそっくりですね。）

優子「えつと・・・」

「あ、2-Fの川崎 葵です」

優子「木下 優子よ」

薫「あれ？面識なかったの？」

優子「ええ、初対面だと思うけど、何か用かしら？」

「その、Cクラスの・・・秀吉くんのことと謝りにきたんです」

そう言った後、私は木下さんに頭を下げた。

優子「じゃあやっぱり・・・！（秀吉・・・アンタの関節の数、倍くらいにしてあげるわ！）」

木下さんは秀吉くんをどう始末するか思案しだしたみたいです。

宗一郎「ま、予想通りだな」

優璃「えっと、葵が謝ることじゃないんじゃ・・・」

宗くんと優璃もいつの間にか話に加わっていた。

優子「そうよ、悪いのはあのバカの弟だから川崎さんは気にしないで」

翔子「・・・優子たち何話してるの？」

ちようどそこに霧島さんが来て、何を話しているのか、と聞いてきた。

優璃「えっと、優子さんのふりしてたのが優子さんの弟だったって話ですよ」

宗一郎「で、葵が謝りにきたが、本人はいないわけだ」

翔子「・・・どうして？」

葵「『作戦だから仕方ないのじゃ！』って言っていました・・・」

宗一郎「善悪の区別もつかないのか？そいつは」

ボタンッ！

秀吉くんがCクラスにしたことについて私たちで話していると、和哉がAクラスにやってきた。

和哉「失礼します、蓮兄いますか？」

愛子「ん？僕、どこからきたの？迷子？」

和哉「・・・（シクシク）」

優璃「和くん、いちいち泣かないの」

和哉「また小学生扱い・・・」

優子「一ノ瀬くん、蓮兄って？」

蓮「その呼び方でできればやめてほしいんだけどなあ」

と、本を読んでいた蓮くんがこっちに向かって来ながらそう言った。

優璃「でも見た目は兄弟で問題ないよ？（笑）」

和哉「・・・もうやだ」

（ごめん・・・否定できない・・・）

愛子「蓮くんと兄弟なの？でも、苗字ちがうよね？」

蓮「いや、兄弟じゃないですから」

優子「え？そうなの？」

宗一郎「和哉が勝手にそう呼んでるだけだ」

蓮「もう慣れたけどさ。で、何か用かな？」

和哉「今日の晩御飯なにがいいですか？」

愛子「ん？晩御飯一緒に食べに行くの？」

薫「えつと、和くんと蓮くんは同居してるんだよ」

愛子「へえ・・・ねえ、もしかして神楽坂君が一ノ瀬君ってお金持ちの家の子なの？」

宗一郎「ん？蓮は神楽坂財閥の御曹司だし、優璃も神谷財閥のご令

嬢で、薫の親も大企業の社長の娘だ」

愛子「神楽坂財閥と神谷財閥って、国内有数の大財閥だよな・・・」

薫「あのさ、葵の話はもういいの？」

宗一郎「まあいいんじゃないか？Cクラスのことば葵も気にするな、Fクラス代表にはきっちりお灸を据えてやる」

「うん・・・」

優子「なにも川崎さんが気にすることじゃないわよ（秀吉・・・アンタの関節使い物にならなくてあげるわ！）」

（木下さん・・・殺気が駄々漏れですよ・・・？）

蓮「木下さん、暴力はダメですよ」

優子「え！？」

翔子「・・・そんな殺気だしてたら、誰だって気づく」

宗一郎「そういえば和哉、Fクラス代表はウチを狙ってるのか？」

和哉「うん、そうみたいだよ」

宗一郎「なら相手の作戦にあえて乗っかって全部看破してFクラス代表のプライドを粉々に打ち砕いてやるか」

薫「宗くんらしいね」

その頃Fクラスにて。

明久「（やっぱりあのラブレターは雄二宛なのかな・・・）」

と、姫路さんのラブレターを姫路さんの鞆に戻し終えた明久は考え込んでいた。ちょうどそのとき、

ガラッ！

秀吉が目には涙を溜めて戻ってきた。

秀吉 side

「・・・（間違いなく嫌われたのじゃ・・・）」

明久「え？どしたの？？秀吉！？」

「葵殿に怒られてしもつたのじゃ・・・」

明久「ど、どうして？」

ワシは泣くのを堪えながら明久に事情を説明した。

明久「・・・もう下校時刻過ぎてるから明日Cクラスの人たちに謝りにいこう？今考えればいくら作戦とはいえやり過ぎだったし」

ガラッ！

そこに麗奈が辺りを見回しながら教室に戻ってきた。

麗奈「・・・2人とも、葵と和哉、知らない？」

「葵殿ならAクラスにいったのじゃ・・・（きつとまだ怒っておるじやろうな・・・）」

と、ワシは俯きながら麗奈にそう言った。

麗奈「・・・？木下くん・・・どうかしたの？」

麗奈はワシの様子がおかしいことに気づいたようで、声をかけてきた。

明久「えっと、実は・・・（事情説明中）なんだ。」

麗奈「・・・怒るのも無理ないと思う・・・葵は演劇が本当に大好きで、必死に努力してる・・・演劇も演劇以外においても・・・だからそんな演劇を冒流するような真似したら怒るに決まってる」

「ワシはそんなつもりは・・・」

麗奈「・・・Ｃクラスの人からしてみれば秀吉くんに罵声を浴びせられただけだね。・・・それに葵は秀吉くんのことを演劇のライバルだと思ってるからこそ本気で怒ったんだと思う」

「じゃが、今回のことで間違いなく嫌われたのじゃ・・・」

明久「で、でも謝ればきつと許してくれるよ！」

「いや、よくよく考えてみればワシも同じ状況ならワシみたいな奴とつるみたいとは思わんのう・・・」

麗奈「・・・大丈夫、葵は自分の非を認めてちゃんと謝れる人を足蹴にしたりしない・・・それに秀吉くんもこのままじゃ嫌でしょ？」

「それはそうじゃが・・・」

明久「と、とにかく明日Ｃクラスの人たちに一緒に謝りに行こ！秀吉！」

「う、うむ・・・そうじゃな・・・」

麗奈「・・・そろそろＡクラスに行つて葵たちと帰るから」

「うむ、すまなかつたのじゃ麗奈殿」

麗奈「・・・きにしないでいい」

そう言つて、麗奈は鞆を持って、教室から出て行つた。

「明久よ、すまなかつたのじゃ・・・こんな話につき合わせて」

明久「ううん、元はと言えば僕や雄二にも非があるわけだからね、さてと、そろそろ帰ろつか秀吉」

「（はっ！？今日家に帰つたら姉上に殺されかねんのじゃ・・・）あ、明久よ！今日はお主の家に泊まりに行つてもよいかの？」

明久「へ？急にどうしたの？」

「た、頼むのじゃ！ワシはまだ死にとうないのじゃ！」

明久「？」

ワシは明久の家に泊まる約束を取り付けてなんとか姉上の脅威から逃げ去った。

（明日は姉上にも謝らねば・・・しかし、葵殿に嫌われると思うと何故か胸が締め付けられるような感じがするのじゃが、これはなんなのじゃろうか？）

第16話&17:謝罪と秀吉の後悔>(後書き)

今回も読んでいただいております。

ちよつとここでアンケートをとりたいと思います。

今回はあんまり話にできませんでしたが、

見た目が小学生の一ノ瀬和哉オリキャラと誰をカップリングさせようか(もしくはカップリングなしか)悩んでいます。

ですので、誰とのカップリングが見たいかを教えていただきたいです。(翔子、優子、オリキャラ、文月学園の生徒ではない人以外)ちなみに、アンケートの期間はまだ決まっています。お手数かけますが、よろしく願います。

第17話&1t;Aクラスとの交渉>t; ; (前書き)

ggggですね(笑)。

第17話&18;Aクラスとの交渉>

問題10

以下の文章の（ ）にはいる正しい物質を答えなさい

・ハーバー法と呼ばれる方法にてアンモニアを生成する場合、用いられる材料は塩化アンモニウムと（ ）である。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え

A・水酸化カルシウム

教師のコメント

正解です。

土屋康太・武内薫の答え

A・塩化吸収材

教師のコメント

勝手に便利な物質を作らないように。

吉井明久の答え

A・アンモニア

教師のコメント

それは反則です。

明久side

翌日。Fクラスにて。

秀吉と僕は朝一番でCクラスに謝罪しにいった後、教室に戻ると、教室には葵さんが1人で本を読んでいた。

葵「・・・おはよう」

そう一言僕らに無愛想に言つと、また本を読み始めた。

（やつぱり怒っているみたいだね・・・）

秀吉「あ、葵殿」

葵「・・・何」

葵さんは秀吉を睨みながらそう言った。

秀吉「ワシが間違つてたのじゃ！すまなかつたのじゃ！」

葵「・・・Cクラスの人たちには謝りにいったの？」

「うん、やつぱり散々罵倒されたけどね」

秀吉「じゃがワシらがしたことを考えたら当然じゃ・・・」

葵「そつか、わかつてくれたならいいよ。後は秀吉くんのお姉さんに謝りにいかないとな」

秀吉の言葉を聞いて、葵さんは秀吉を睨むのをやめ、いつもの様子に戻った。

秀吉「そ、そうじゃな・・・（ワシの命は今日までのようじゃ・・・

）」

ガラッ！

ちようどそこに麗奈が登校してきた。

麗奈「・・・おはよう」

秀吉「麗奈殿おはようなのじゃ」

「おはよー」

麗奈「・・・仲直り・・・できた？」

秀吉「うむ！」

麗奈「・・・よかった」

時刻08:45

雄二「よし、皆注目してくれ！」

F「なんだ？」

F「対Aクラスの作戦会議か？」

雄二「まず皆に礼を言いたい。不可能だと言われていたのにも拘らずここまで来れたのは・・・他でもない皆の協力があつてのことだ感謝している」

「ゆっ雄二どうしたの？らしくないよ？」

和哉「明日は槍でも降つて来るのかな？」

雄二「流石に酷くないか・・・？だがこれは偽らざる俺の気持ちだ」

雄二「ここまで来た以上絶対Aクラスにも勝ちたい・・・勝つて生き残るには勉強が全てじゃない現実を教師どもに突きつけるんだ！」

F「おおーッ！！」

F「そっだあーッ！！」

F「勉強だけじゃねえんだーッ！！」

雄二「皆、ありがとう。そして残るAクラスだがこれは一騎討ちで決着をつけたいと考えている」

和哉「一騎打ちですか？」

須川「それで本当に勝てんのか？」

雄二「ああ、俺を信じてくれ。過去に神童とまで言われた力を、今

皆に見せてやる！」

Aクラスにて。

恒例の宣戦布告、今回は代表の雄二と僕と秀吉、康太、和哉、葵さん、麗奈ちゃん、姫路さん、島田さんという首脳陣勢揃いでAクラスに来ていた。

久保「一騎討ちかい？」

雄二「ああ。Fクラスは試召戦争として、Aクラス代表に一騎討ちを申し込む」

葵「（まさか優璃に勝つ気なのかな？）」

和哉「（もしかして、今までは手を抜いてたとか？）」

久保「何が狙いなんだい？」

現在、Aクラス側の交渉の席にしているのは久保くん一人。

雄二「もちろん俺たちFクラスの勝利が狙いだ」

久保「面倒な試召戦争を手軽に終わらせる事ができるのはありがたいが、だからと言ってわざわざリスクを犯す必要もないね」

雄二「賢明だな、ところで、Cクラスの連中との試召戦争はどうだった？」

久保「時間は取られたはしたが、それだけだが？何の問題もないね」

雄二「Bクラスとはやりあう気があるか？」

久保「Bクラス・・・昨日来て居たあの・・・ウブッ！・・・」

雄二の言葉に久保くんは昨日のアレ（根本の女装）を思い出しらしく、吐きそうになっていた。

雄二「ああ。アレが代表をやっているクラスだ。幸い宣戦布告はまだされていないようだが、どうなることやら」

久保「だが、BクラスはFクラスと戦争して負けたんだから試召戦争は3ヶ月禁止のはずじゃなかったかい？」

雄二「知っているだろ？事情はどうあれ、対外的にはあの戦争は『和平交渉にて終結』って事になっていることを。規約にはなんの問題も無い」

ボタン！

そこに遅れてAクラスの二人が入ってきた。

宗一郎「遅れて申し訳ない」

優璃「失礼します」

久保「用事はすんだのかい？」

宗一郎「ああ、それで話はどうなっている？」

久保「・・・Bクラスが攻めて来るらしい」

宗一郎「いや、それはない」

雄二「は？なにいつてるんだ？」

その時、外から、

小山『我々Cクラスは、Bクラスに宣戦布告をします！！！』

根本『友香！？どうしてだ！？』

宗一郎「こういうことだ」

雄二「な！！！？どういうことだ！？」

宗一郎「簡単な話だ、Cクラスを倒したのち、設備ダウン回避を条件にCクラスをいいなりにした。ただそれだけだ」

「ど、どうすんのさ」雄二「！？」

優璃「あれ？あ、あなたは！！？」

「へ？（誰だろうこの子？可愛い子だな）」

優璃「あの時わたしを助けてくれた人ですよね！？」

葵「ん？優璃、吉井君と面識あるの？」

優璃「この前変な人に絡まれた時に助けてくれたんだよ／＼／」

「ああ！あの時の！？無事でなによりだよ！」

姫路「また、吉井君の側に綺麗な子が・・・」

島田「これはボツキリ話を聞かないと・・・」

話を聞いていた2人は何故か黒いオーラを出しながら、僕に迫ってきた。

「待つて！ボツキリはおかしいから！？」

宗一郎「・・・話をもどしていいか？」

優璃「あ、ごめんなさい／＼」

宗一郎「さて、一騎打ちの件だが条件付きで別に受けても構わないぞ」

雄二「・・・条件はなんだ？」

翔子「・・・負けたほうがなんでも言うことをひとつきく」

雄二「いいだろう」

翔子「・・・私は雄二と付き合ってもらおうから」

僕・康太「・・・は？・・・あとで異端審問会にリーク決定！！」

宗一郎「あとは代表一騎打ちじゃなくて、9対9で、こっちが指定したんだからな、科目選択権はそっちに5つ、こっちに4つでいいだろう。・・・これなら受けてもいい、いいな、代表」

優璃「いいよ」

秀吉「うむ？代表は霧島ではないのかの？」

翔子「・・・私は代表じゃない」

雄二「は？」

葵・和哉「え！？知らなかったの！？」

宗一郎「なんだ？知らなかったのか？まあいい、開戦は何時にするんだ？」

雄二「・・・午後からでどうだ？（まずいな・・・となると俺の作戦は無意味じゃないか・・・だが、いまさら後には引けねえ）」

宗一郎「まあいいだろう、交渉成立だ」

第17話&1t;Aクラスとの交渉> ; (後書き)

引き続きアンケート(第16話の後書きに詳しいことは書いてます。
)を行っていますのでご協力お願いします。

あとご意見、誤字脱字等ありましたら感想に書いてくださると助かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068z/>

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月21日09時45分発行